

中央大学理工学部電気電子情報通信工学科同窓会

同窓会々誌



2011-10 第48号

平成23年度 総会・懇親会 は11月19日(土)

会誌第48号 目次

ごあいさつ	会長	菱沼 一夫	3
電気電子情報通信工学科及び工学専攻の近況報告	教授	小林 一哉	4
新任のごあいさつ	教授	橋本 秀紀	5
新任のごあいさつ	助教	大竹 充	8
退官のごあいさつ	教授	稲葉 次紀	9
しばらくぶりのご挨拶 (内祝い)	昭和29年卒	小林 健一	11
私の近況「はかなさのはてに」	昭和31年卒	遠藤 正雄	12
私の近況	平成04年卒	木嶋 雅史	13
“40年エレキという名の定例会”の紹介	昭和40年卒	野末 佳伸	14
2010年度同窓会総会・懇親会の実行幹事役体験記			17
還暦を越えた輪「47遊会」が元気です			21
私の原発日記	昭和44年卒	田中 春雄	23
“不幸中の不幸”：福島第1原発事故のコンプライアンス [倫理的正義の遵守]の検証と自己反省	昭和39年卒	菱沼 一夫	27
同窓会新会員のご紹介			34
会誌発行业務費の集計報告 (その10)			35
会計報告			36
同窓会財務委員会より		辻 正吾	37
会誌WEB化後の印刷物送付 要・不要 アンケート集計結果			38
同窓会ホームページのご案内		門原 健男	39
修士論文発表会 同窓会賞			40
同窓会賞・受賞者からのコメント			41
同窓会の発展に関する一考察		飯塚 信市	42
会員からのお便り			44
総会時開催講演会の要旨		庄司 一郎	48
編集後記	副会長	飯塚 信市	50
惜別の歌 (歌碑)			51
同窓会総会・懇親会開催のお知らせ			52

ごあいさつ

会長 菱沼一夫



東日本大震災で被害をお受けになられた方々に改めてお見舞い申し上げます。

会員の皆様元気でご活躍のことと拝察いたします。同窓会会誌第48号をお届けします。

東日本大震災で起こった福島第1原発の暴走は、取り返しのつかない**“不幸中の不幸”**を起こしました。

大自然を大損傷してしまい取り返しのつかない悲劇になっています。我らの会員にも直接/間接の被害を受けています。直接/間接に関係する方々の苦勞、悔しさ、空しさ、やるせなさ、憤り、不安、損害等、言葉では表しきれない思いで一杯です。(私自身もそうですが)40数年以上、企業の社員活動を通し社会活動関与する中で、良かれと信じ生涯を掛けて努力してきた多くの人の思いをぶち壊してしまいました。この事故の背景には、約半世紀の日本人の努力の集大成があり、その是非を国民に問いかけています。若き諸氏にはこの重い課題に勇氣をもって対処して戴くことをお願いします。

我々の同窓会の最大の役割期待は会員各位が母校に思いを寄せた時に①同窓会の活動状況、②大学の現状、③出身研究室の動向、④ゼミの同窓会動向の容易なコンタクトができるようなシステムを提供することにあると考えます。私もそうですが、古い卒業生は所属していた研究室が終焉してしまって、連絡基点を失ってしまった方が沢山おられると思います。電気同窓会のホームページが**“Information Center”**として機能できるように更に充実させていきたいと活動を推進しています。独自のホームページの運用は、会員へのタイムリーな情報提供の機能を果たし始めています。更に会員相互のコミュニケーションセンターに発展して欲しいと念じています。

一昨年から卒業対象者の研究室を1日ばかりで訪問して、同窓会の紹介と入会の勧誘を個々人宛に直接進めています。当該者の理解も深まり新規の入会者が徐々に増え始めています。会員諸氏のロコミもあって、会員は増加しています。

学内事業としても定着しつつある8回目の修士論文の「同窓会賞」には今年も同窓生の起業社のアイコンテクノ社、ウッズ社、菱沼技術士事務所さん協賛戴き、会員有志の参画で8件の発表に授与しました。

何時も元気に我々の活動を励まして戴いていた第8代会長、現監事の黒崎 勝吉氏は6月24日に逝去なさいました。ご冥福をお祈りします。氏の追悼を小林健一名誉教授にご寄稿戴きました。

関係各位の積極的な協力を戴き本号より会誌の体裁をA4版に改訂しました。1ページ当たりの字数の増加や文字を大きくすることができました。併せて配送用の封筒をA4にしました。内輪の事情ですが、少し安い発送料で、従来の二つ折り発送の多大の手間が省略できるようになりました。ホームページとの連携も強化しています。本号は沢山の方のご協力での十分な原稿をお寄せ戴きました。ありがとうございます。

当会には固定的な運営資金の調達方法が新入会員の加入しかありません。各位の会誌発行協賛金の協力を改めてお願いします。

本年の同窓会総会は39年度卒業グループ(委員長 天野浩志)のご担当で本会誌に記載のように本学の教室(総会)と新3号館(懇親会)を使って行います。万障お繰り合わせの上、久しぶりの学内の視察を含めご参加いただきますようお願いいたします。

皆さん総会でお会いするときには少しでも明るい話題が日本の社会を包んでいることを祈念しています。では同窓会総会でお会いしましょう。

(7月20日記 昭和39年卒)



電気電子情報通信工学科 及び工学専攻の近況報告

電気電子情報通信工学科 教授 小林 一哉

平成23年度の電気電子情報通信工学科ならびに電気電子情報通信工学専攻の主任として、皆様の日頃のご支援に対し、厚く御礼申し上げます。

昨年度は、木下先生が電気電子情報通信工学科と電気電子情報通信工学専攻の主任を兼務されました。今年度も学部・学科、大学院・専攻の運営体制は昨年度と同様で、私は現在、学科・専攻両方の主任を兼務しております。これは一見、合理的ではありますが、担当する私としましては、学部と大学院に関する両方の業務を処理しなければならず、なかなか大変であります。

さて、本学科の教育・研究体制ですが、下記の通り、12名の教授、2名の准教授、1名の助教の計14名により構成されております。学生数は、1年次142名、2年次131名、3年次146名、4年次155名で、4年次以降が36名おります。

教員構成 (各50音順)

- ・今井 秀紀 教授 (情報理論、情報セキュリティ)
- ・木下 源一郎 教授 (ロボット工学、計測制御工学、センシング工学)
- ・小林 一哉 教授 (電磁波論)
- ・篠田 庄司 教授 (回路、ネットワーク、システム工学)
- ・庄司 一郎 教授 (レーザ、非線形工学)
- ・白井 宏 教授 (電波工学)
- ・杉本 泰博 教授 (集積回路工学)
- ・築山 修治 教授 (VLSI設計技術、アルゴリズム工学)
- ・橋本 秀紀 教授 (制御、ロボティクス、空間知能化、電力システム)
- ・二本 正昭 教授 (情報記録、電子材料工学)
- ・山村 清隆 教授 (情報数理工学)
- ・国井 泰晴 准教授 (宇宙ロボット、テレロボティクス、バーチャルリアリティ)
- ・久保田 彰 准教授 (信号・画像処理、情報通信)
- ・大竹 充 助教 (磁気記録、薄膜工学)

また、大学院・専攻につきましては、教員構成は学部・学科と同一であり、学生数は111名(内、女子1名)であります。

一方、卒業生の就職状況ですが、今年度も厳しいながら、学部卒業生、大学院卒業生共に大変健闘しており、中央大学理工学部の就職率は、昨年度と同様、ほぼ100%に近い数字を示しております。

以上、簡単ではありますが、学科・専攻の近況を紹介させていただきました。同窓生の皆様のますますのご健康とご活躍を祈念しております。



新任のごあいさつ

電気電子情報通信工学科 教授 橋本 秀紀

～ 自己紹介（高校まで）～

2011年4月1日から本学に奉職する橋本秀紀です。

就任にあたってということですが、私自身の忘備録も兼ねて高校までの自己紹介を致します。

幼稚園・小学校：東京へ

1957年8月15日に佐賀県の父の実家で生まれる（3人兄弟の長男）。父がブリヂストンの機械技術者なので福岡県久留米市の社宅（アパート）に住んでいたが、幼稚園入園の直前に父の東京工場への転勤（栄転？）で東京都小平市の社宅へ引っ越す。この辺りは覚えているわけがなく親からの伝聞。

ブリヂストンは社員の福利厚生が大変手厚いので、幼稚園も会社が持っているのだが、東京工場では建設が間に合わなかったとのこと。少し離れた洗心幼稚園へ入園する。社宅から幼稚園のバスに乗って1年間通う。その後、ブリヂストン幼稚園が開園し栄えある第1回卒業生となる。

小学校は小平市立第6小学校へ入学。この学校もブリヂストンの援助を受けて校舎の新設をしたと聞いている。高度経済成長期を迎えた企業は何と羽振りが良かったのか。小学校1年生の時の東京オリンピックには青梅街道まで出向き日の丸を振った。

このまま卒業かと思っていたら、社員も羽振りが良くなったのだろうか、両親が社宅を出て自宅を持つということで、小学校5年生の2学期に新設されたばかりの小平市立第13小学校へ転校。そして、

めでたく第1回卒業生となる。

小学校の時には、国分寺線、中央線、総武線を乗り継いで秋葉原へと足繁く通いトランジスタを買い込んでいた。まだ、パーソナルコンピュータはなかった。

中学校：下関へ

小平市立第2中学校へ入学。この学校もブリヂストンの支援を受けていたと記憶している。小平市がブリヂストンの城下町になっていたから当然ではある。

秋葉原通いも続けながら中学生となり、新宿へ映画を見に行く日々が続いていたが、中学2年の1学期に父が山口県下関市へ転勤（左遷だと思う）となった。家も建てて3年程度なので、父の単身赴任も考えたようだが結局一家で行くことになる。

2学期に山口県下関市立長府中学校へ転校。長府は長州藩の支藩で、明治維新の時に高杉晋作が騎兵隊を率いてクーデタを組織したり、日露戦争時の乃木希典大将が幼少時をすごした場所でもある。平家滅亡の壇ノ浦もすぐ近くにあり、海、川、山、城下町、神社仏閣となんでも揃っており、住宅と工場がメインの小平市とは全く違っていた。

東京からの転校生として畏怖の目で見られながら、どうにかその期待に応えた。彼らは東京と東京都がかなり違うことを知らなかったようだ。私が新宿あたりに住んでいたと信じていたようだ。

高校：再び東京へ

東京からの転校生の期待を裏切らないように勉学に励んだので、進学校であった山口県立下関西校理数科へ入ることができた。当時の理数科は入るのが難しく、普通科が滑り止めであった。40名の定員で、第1回卒業生は8名東大へ進んだということで山口県では話題になっていた（私は第4回入学生。卒業はしていない）。関門海峡を見ながらのバス通学、怪しい山岳部での活動、日々の勉学、とそれなりに充実していた。

高校2年の9月に、父が東京へ転勤（左遷が解けたのだろう）になった。会社というのは勝手なものだが仕方がない。修学旅行も終わり、高校2年生も半ば過ぎた大事な時にどうするかということになった。父の単身赴任か。結論は、一家で東京に戻ることにした。

大学受験を考えて、私のみ一人暮らしの可能性が出てきた。しかし、両親の強い勧めもあり、国立市の桐朋高校への転入試験を受けることになった。競争試験ではなく資格試験のようなもので、旺文社の大学入試問題集から英数国1問ずつ出題され3時間で解けという。手抜きだなと思い、私の意志（一人暮らし）を示すために国語を白紙で出した。結果は合格である。英数が満点だったのでクリアしたという。えっーという感嘆とともに、私の一人暮らしの可能性は消えた。

さて、10月21日だったと思うが、下関駅に父の同僚そして理数科の同級生も集まり夜行列車で一家は東京の小平市に帰った。人気のないホームを出ていくときは、映画のシーンのように寂しくて仕方がなかった。

自由な高校：

担任の鈴木一成先生（のち校長）が職員室で全教員に私を紹介した。教員が拍手するのである。私学は生徒に優しいのだなと思った。（なにしろ、授業料が10倍以上も跳ね上がったのだから当然だとも

いえる。でも、本当に優しい学校であった。）

続いて、2年x組（忘れてしまった）での紹介。なんて挨拶したらいいのか、言いよんでいると「それだけかよ」とのヤジが飛ぶ。先生がいるのに勝手に発言するんだなと素直に驚く。それから、下関西校は学生服だったが桐朋高校は私服である。なんて自由なんだと感心する。

ともかく新しく高校生活が始まった。教科書が全て違った。地理は終わっている。理科Iも終わっている。世界史が途中から。大混乱である。

ついでに、50名のクラスに橋本が3名もいる。出欠の時に区別するために「ヒデキ」と呼ばれ出欠を取られる。合理的ではあるが、当時は不思議な感じであった。

とにかく自由な学校であった。校長も教員の選挙で選ぶ程であった。2年生から3年生にかけてはクラス替えがない。朝ホームルームで出欠を取ると、各自の選んだ選択科目を取るために教室を移動する。ホームルームでしか会わない同級生もいた。まるで大学である。私は、転校したがゆえにカリキュラムが混乱したので、数学IIIとか様々な単位を取らなかった。最低限の単位数で卒業することになった。朝ホームルームに出て午前中授業がない日があったかと思う。そのような日には、隣のNHK学園で本を読んだり早い食事をする。大学生のようであった。高校でこんな生活があるとは想像もしていなかった。

自由は楽しい。下関西校では、毎日何時間も予習復習が必要であった。毎回の中間期末試験の順位が公開されていた。しかし、桐朋ではそのようなことがなかった。山口県は県立の高校の多数が参加して共通テストを行い、順位をつけて公開する。大きなプレッシャーであった。しかし、桐朋ではそのようなプレッシャーがない。教師も生徒を大人として扱ってくれる。生徒もお互いを個人として尊重する。一見放任のようにも見えるが、個人の自由を尊重することであった。自由に関して沢山学んだ。

しかし、自由には自己責任というコストも発生する。やはり若いときには勉強は十分すべきである。桐朋の同級生は大多数が1年間予備校に行くことになる。高校4年生のようなものである。勉強を十分していた下関西校の同級生の多くは高校4年生をやらなかったようだ。東大への進学を見ると、下関西校理数科は37名中2名、桐朋は50名中6名、なのだが予備校に行くことになったのは桐朋の5名である。私は、東大しか受けなかったので予備校に行った。(他を受けてでも、大学というフェーズで学ぶべきであった。一年がもったいなかった。)

自由の大事さとか良さを教わったことは大変感謝している。プラスだったかどうかは別として、そ

の後の様々な局面で自由を学んだことによる選択を行ってきた。それだけは誇りに思う。それと勉強はできるときにしておいた方がよい。もう一つ、次のフェーズに行ける可能性があるなら早く行った方が視野が広がる。

今回はここまで。この後の、大学、短い就職、大学院、研究歴、中央大学との関わり(電気の國井先生、精密の新妻先生登場)、メッセージ、新しい研究テーマ、などは同窓会などでお目にかかった時にお話ししたい。

高校卒業後の履歴

1977年4月	東京大学理科1類入学	更に自由を求める。
1981年3月	東京大学工学部電気工学科卒業	
1981年4月 ～同年5月	中国電力	← とても短い就職。
1982年4月 ～1984年3月	東京大学大学院工学系研究科 電気工学専攻修士課程	
1987年3月	同博士課程修了、工学博士	よく勉強し研究した。
1987年4月	東京大学講師 研究室開設	研究テーマは難しい。
1989年9月 ～1990年9月	MIT 客員研究員	日米欧行ったり来たり。
1990年7月	東京大学助教授	沢山の研究テーマ。ちょっと長かったかな。 研究室閉鎖。
2011年4月	中央大学理工学部教授 研究室新設	新しい研究テーマ。今から楽しそう。

就任のごあいさつ



電気電子情報通信工学科 助教 大竹 充

本年度より助教に就任しました大竹充と申します。就任にあたり、自己紹介と抱負について述べさせて頂きたいと思ひます。

私は、横浜生まれの横浜育ちで、高校までは、自宅から10分程度の学校に通ってました。高校の頃の夢は高校の数学の先生になることでした。私が高校の先生になりたいと思っていた理由は、数学が好きであることはもちろん、学生さんに、勉強だけでなく色々な可能性を与えてあげることができることに魅力を感じていたので。そして、大学は、高校の数学の先生の資格を取得できる本学、中央大学の電気電子情報通信工学科に入学しました。教職コースの申請は大学2年の春にあるのですが、ちょうどその時、体調を崩して入院してしまい、手続き上の問題で、教職コースの科目を履修することができませんでした。そこで、入院していなければ、おそらく、今、こうして、ご挨拶させて頂いていることもなかったと思ひます。

大学4年生になり、二本研究室（電子材料工学研究室）に第2期生として配属されました。二本研究室を選んだ理由は、物性系の研究室で、実際に物を作れるというところに魅力を感じたからです。（実際、物をちゃんと作れるようになったのは、私が配属されてから1年ぐらゐ経過した後で、配属された頃は、広い部屋に、机と椅子とパソコン、光学顕微鏡しかありませんでした。今は、様々な実験装置が揃っています。）そして、二本研究室には先輩院生がいなかったのゝ、博士前期課程1年次までは、よく研究室で実験をしていて1人で、会話をしたのが警備員さんだけという日もよくありました。その後の二本研は、自主的に研究をする学生さんが増え、そのような事を想像できない程、いつもにぎやかです。

初めての学会発表は、博士前期課程1年次で、2件連続の講演だったのですが、1件目の質疑応答で

厳しい質問をされ、2件目で更に厳しい指摘をされ、最終的に出直して来いと言われ、その時の悔しさを今でも忘れません。仮に今の私はその質問に答えるのであれば、相手側の根拠もない発言に、論理的に証拠を持って反論すると思ひます。しかしながら、その経験は、ものすごく刺激的で、私にプラスの効果をもたらしました。早く一流の研究者に追いつき追い越すために頑張らなければという気持ちにさせました。その後の私の目標は、「普通の人ゝ3年でやる研究を1年でやる」です。学会経験をつみ、修士論文発表会では、同窓会賞を頂きました。博士後期課程に進み、2008年4月からは日本学術振興会の特別研究員にも採用されました。研究室では、多くの学生さんを指導し、多くの研究業績をあげました（http://www.elect.chuo-u.ac.jp/fu_tamoto/lohtake/）。学生さんに指導することで、私自身、教えられることも多く、また、指導教授の二本先生にいつも懇切丁寧に指導して頂き、その結果、研究成果が得られているものだと思ひており、いつも、支えてくれる皆様への感謝の気持ちを忘れないようにしています。

本年度4月からは助教で、大学3年生の電気電子情報通信工学実験の変圧器を担当しています。また、電気電子情報通信工学概論では、初めて教壇に立たせて頂きました。電気科のホームページ（<http://www.elect.chuo-u.ac.jp/>）もリニューアルしましたので、ぜひ、ご覧頂けたらと思ひます。研究に関しては、引き続き、二本研究室で、次世代磁気記録媒体やMRAMなどの磁気デバイス応用を目的した原子レベルでの磁性薄膜微細構造制御技術に関して研究を行っています。私は、中央大学の電気電子情報通信工学科で、学部生、大学院生、TA、RA、助教と様々な立場の経験をさせて頂き、その経験を活かして、私に出来ることを学生さんにしていきたくと思ひます。

退官のごあいさつ



教授 稲葉 次紀

同窓会の皆様、お元気にお過ごしのこととお喜びもうしあげます。今回の東日本大震災にあわれた方々には、心からお見舞い申し上げます。

さて、私は17年前の1994年に本学に赴任し、本年3月に定年退職いたしました。短い期間ではありましたが、本学において、教育・研究に参加できましたことに深くお礼申し上げます。

私が担当いたしました科目は、実験などの学科共通科目に加え、発電・送配電・新エネルギーの三専門科目です。見てのとおり、電力関連です。電動機の猪狩先生や高電圧の遠藤先生などのご退職後、電力分野をご担当される先生が少なくなり、そのため、就職先に電力会社や重電メーカー、鉄道などを希望する学生が、卒業研究先に本研究室を希望され、とても楽しく勉学できました。また、大学院に進学される学生も毎年数名居られ、更に進化した高級技術や研究に邁進されました、研究テーマは、ロケット打ち上げによる雷性状の補足や、太陽光発電の効率向上、超電導体を用いた限流装置など多岐にわたりますが、中心は、アークプラズマによる有害廃棄物処理です。

私の専門は、電力アーク特性の解明・活用です。前職の電力中央研究所では、送配電線に発生する故障アークをいかに早く消すかという消弧（遮断）現象の研究でした。アーク柱の温度は、通常5千度～1万度の超高温で、消弧させるには大変ですが、逆にこの温度を用いてあらゆる物質を溶融・気化する

ことが可能となります。この後半の特性を活用したのが「アークプラズマを利用した有害廃棄物の処理」です。廃棄物を溶融し、固化させ、中に含まれている有害物を強固な溶融固化体中に閉じ込め、周囲に溶け出すのを防止するわけです。

本学に赴任する際に、学科の支援により、遠藤先生の名目の下に、30kWのアークプラズマ溶融実験装置を作っていただき、この装置を用いて、1号館地下の実験室で、卒業研究生と、更には院生と、アスベストや焼却灰などの有害物質の溶融固化実験を始めました。試料は1cm角の大きさですが、うまく溶けてくれました。固化体の成分を分析したり、規定の蒸留水中や、研究室独自のpH2クラスの酸性水で表面からの漏洩物質を測定し、十分満足のいく抑止性能を達成できたことを確認できました。

これらの成果を電気学会で論文発表するとともに、文部科学省のハイテク・リサーチ研究に応募しましたところ、関係者のご努力で採択して戴き、研究所に200m²の2階建て実験室を建設していただき、5カ年間の研究を遂行できました。皆様のご支援のおかげと深く感謝いたしております。これらの設備は、ハイテク研究の終了後も更に5カ年の自主研究を継続するように要請がなされ、研究所のご配慮も戴き、退職するまで、都合13年間研究を続行でき、非常に有意義でした。

さて、研究室でもっとも果敢に行動したのは、先にあげたロケットによる雷の補足です。日本海の冬季雷は、世界的にもっとも過酷なエネルギーを持ち、送電線に故障を誘発させていました。この雷の性状を把握するため、北陸電力と中部地方の大学等が中心になり、リード線付きのロケットを数百m打ち上げて雷を補足する試みを、金沢の南の奥獅子狗山頂で11月の雪の中で行っていました。

当研究室も冬季雷のアーク柱の電界、ひいては電力・エネルギーを把握するために数年間実験に参加させていただきました。学生たちは元気に山を駆け巡り、電界測定器やアーク柱撮影機、測定用光ケーブル等の設置にいろいろなアイデアを出して、挑戦してくれました。気温は0℃前後で、雷雲が来るのは、たいてい夜が多く、徹夜の連続です。

ロケットの総数は一冬で20～30本で、そのうち2～3本が当研究室に割り当てられます。それ以外は手伝いですが、共同生活は面白いもので、大学を横断して学生間の絆を強めます。学生は1週間ごとに交代して下山します。それ以上長いと喧嘩が起るそうです。学生によっては落雷を見ずに下山する者もいて、可愛そうでした。中大の学生は、みな元気で、他校から賞賛を浴びていました。私も毎年1週間ほど滞在しましたが、たいてい落雷に遭遇し、幸運でした。ただし、現地は、山中を2～3時間歩かねばならず、荷物があるのでとてもシンドイ思いでした。おまけに熊が出るというので、鈴を振っての行進です。下山しての金沢でのお風呂と食事は、

また格別でした。得られた成果は、金沢での国際雷放電大会で発表しましたが、雷の持続時間は、数十～数百msで、夏の標準雷（10～20μs程度）に比べ、1000倍も長いのがほとんどでした。とてもよい経験でした。

他の経験は、他大学・メーカーと組んで移動式の小型プラズマ処理炉を東京都の助成で開発したことです。4トン車では積み切れず、5.5トン車の設計になりました。有害廃棄物が出る病院や建築解体現場への「出前」出動を計画しましたが、現地にプラズマを発生させるに十分な電源が無く、実際は、研究所で公開していました。退職を機にメーカーが引き取り、今後の活用を模索しています。今回の東日本大震災で、宮城県のバイオ発電会社より問い合わせがありましたが、具体的には、未定です。

研究室を卒業した学生は、大学、電力会社（東北・東京・中部・北陸・四国・中国など）、重電メーカー（日立・東芝・三菱・富士など）、鉄道（JR東北・東海、東京メトロ、小田急・東武・京成など）、工事会社、鉄鋼メーカー、情報処理会社などに就職し、それぞれ活躍しています。

学内では、諸先輩の先生方や、現職の先生方・技術員の方々・事務室員の方々に大変お世話していただき、真にありがとうございました。特に最後の2年間は、入院が多く、ご迷惑をお掛けいたしました。今後の皆様方のご健康を祈念いたします。

しばらくぶりのご挨拶 (内祝い)

名誉教授

小林健一 (昭和 29 年卒)



「この度 はからずも」と言いますと嘘になりますが、中央大学を定年退職してから、15 年になる迄の間に、母校事務方の大変な御力添えもありまして「文部科学省」経由で平成 23 年春の勲章を受ける事が出来ました。

…… 瑞宝中授賞 ……

という勲章でありまして、東北大震災の影響もあり…日本中の行事が大幅に遅れましたが、本年 6 月 27 日に「4 月 29 日付」で戴く事が出来ましたので同窓生諸君にご挨拶する事になりました。つきましては、電気科の築山教授が間に入ってお計らい戴きまして、本同窓会会誌に「ご挨拶」という形で…内情をお話する

わけです。母校を挟んで文科省との手続きは長期に亘り、大変でした。細かい履歴書はもちろん、研究・教育歴・所属学会の内容・歴史等…A4 版で印刷提出させられました。やっかみ半分ですが、本来この種の勲章は「政治家」「政府官僚」「軍人さん」等が受領する物で、各分野の後輩や組織が退職した先輩方に業績の評価を纏めて贈るものであった形を一般庶民に拡大(戦後)したもので、我々の場合身の回りは自分で情報集めることが大変なわけです。そんな事もあって、築山先生は中央大学の事務方を通して文科省に出した厩大な書類を、今回、同窓会誌に載せられたらとも言われましたが、お断りして、結果だけを私の方からご挨拶することにしたわけです。まあ私が何者か等…ご存じ無い方も多くおいでの時期でもありますので、極く簡単に略歴だけを最後に書いておきます。

小林健一：昭和 6 年 8 月 東京神田生まれ 42 歳まで日本橋に在

その後 現在まで神奈川県大井町に居住 本年 8 月で満 80 歳

昭和 29 年 中央大学工学部電気工学科卒業 (まだ理工学部ではない)

昭和 45 年 中央大学教授

平成 9 年 中央大学を退職し名誉教授として現在に至る

追記：「黒崎 勝吉君 (本学同期生)」は、6/18 の新聞発表にて亡くなる寸前に私の受勲を知り、喜んでくれた由…冥利につきます。

訃報：黒崎 勝吉氏 逝去



かねてより御活躍中であつた、黒崎勝吉君 (私と同期・電気 2 期生) が、本年 6 月 24 日急逝されました。彼の冥福を祈り、同窓諸兄にご報告する次第です。

諸兄ご存じの通り、彼は我が電気・同窓会の創世記より運営幹事や会長職を勤め、現在も運営の顧問として永い間本会の発展にご尽力戴いて来ました。我々電気 2 期生が卒業した頃は先の大戦後の不景気の時代でした就職も厳しい時でありました。数年前に亡くなられた有名教授の「大類先生」が手弁当で探してくれた出来たての「八州電機 (日立系)」に入

社試験を突破、そして彼の本領発揮、神田須田町にあつた小さな会社を新橋に大ビルを建てた一流・上場企業とし、その取締役になつて頑張りました。我々の同窓会をその新社屋で派手に開いた事もありましたし、後輩も多数育てて貰いました。最近は、お互いの年齢の事も一才元気が…というようでありました。ところが、彼の一人息子である光吉君 (中大電気・昭和 56 年卒…私の教え子でもありました) が昨年 9 月に亡くなりました… (これも報告の一つです) ことも彼の気持ちに響いていたのかも…そして我々電気 2 期生で仲良しの池田澄男君の奥さんが昨年暮れに亡くなり…彼を含め、我がクラスにポツカリ大きな穴があいたようであります。

中大・電気・同窓会の重鎮を失い、私もショボくれているわけです。草々

私の近況 「はかなさ」のはてに

31年卒 遠藤 正雄



2011年7月9日千歳 15.30 発 ANA68 便は快晴の空を羽田に向かった。札幌での同期会に出席の帰りである。本来なら楽しい旅行記を書きたいところであるが、このところ何処の会合に出席しても「3月11日の東日本巨大地震と大津波災害、福島第一原発事故」の話題で持ちきりである。専門外とは言え、電気工学を学んだ我々OBとしては全くの門外漢というわけにもゆくまいと考えるのだが、どうにもならない現実にはじれったさが込み上げてくるのである。そんな訳で、飛行中僕の目はほとんど窓に釘づけで、仙台湾、福島第一原発を遠くに見ながら「はかなさ」をかみしめた次第である。

「はかない」とは「はか」がないこと、つまり「はかがいく」「はかどる」の「はか」がないことで、努めても努めても結果をたしかに手に入れないということから、あつけない、むなしい、という意味になった言葉だということです。(岩波古語辞典)。さらに遡れば、その「はか」とは、もとも

と田圃に稲を植える際の、田を画する単位であったということで、その「はか」は、物事を計量するという「計る」「量る」「測る」の「はか」、また物事の見当をつけてあれこれ論じ調整するという「諮る」「忖る」「衡る」の「はか」、さらには物事を自分のためにもくろみ企てるという「図る」「策る」「謀る」の「はか」でもあります。」

以上は竹内整一の論文「夢と「生きる力」中央評論No.237,(2001.53巻3号)」からの抜粋である。長々と引用させて頂いたのは、今回の災害で頻りに耳にした「想定外」という言葉は、上述の「はかない」の後者の意味ではなからうかと思えたからである。「はかない」(後者の意味)からもたらされた「はかなさ」(前者の意味)は涙なくては見られない光景であったし、原発事故は後世に大きな負の遺産を残す結果となってしまった。やがて、原発廃止か存続かを問われる時期がくるかも知れない。その時には正確な情報に基づき、悔いのない意思決定をしたいものである。

多くの情報の中から特徴的な部分を抜書きしてみることにする。

- (1) 電気学会雑誌 Vol.126,(2006.4)大特集:「エネルギー供給と環境」、解説「エネルギー消費と環境問題」の中で、佐藤義久は次のように記述している。「***今後新たに発見されるであろう石油、天然ガス、あるいはオイルシール・サンド、メタルハイドレートなどまで考慮しても天然資源で維持できるのはせいぜい400~600年であろう。***」

近年、シェールガスと呼ばれる岩盤層に眠る新型のガスが商業生産されるようになり、更に、シェールオイル(シェールガスと同じ構造の地層にある石油)も脚光を浴びるようになったとエコノミー誌は伝えている。一方、急ピッチで進められている自然エネルギーは全発電量の1%程度である。

(2) 科学 Vol.81, No.7 (2011.7) 特集:「原発の無くし方」で西尾漠は「廃止処置のゆくえ」と題して次のように述べている。「***事故でない場合の廃止処置の手順は、次のようなものである。使用済み燃料搬出—系統除染—安全貯蔵—解体撤去+廃棄物処分 廃止処置の開始から完了までの期間は、約 20 年と見積もられている。***」

福島第一原発のような事故の場合はこれまた「想定外」の年数と新たな技術が必要になるのではなからうか。上記行程中、手順のどれ一つをとっても気の遠くなるような話に思えるのである。しかし、この廃止処置技術の確立こそ、成し遂げなければならぬ科学技術者の役割であろう。後世に残した負の遺産を償う道であろうと考える。

以上、化石燃料の枯渇と廃炉の困難さの両面を書いてみた。今更の感は拭えないが、我々人類は原子力という「パンドラの箱」を開けてしまったのであ

る。「その蓋を閉めることは絶対に不可能である」と言うのが論趣である。なぜなら「放射性物質の半減期を人為的に変えることができない」からである。福島第一原発の収束へ向けての進捗状況は連日報道されているが、その困難さに胸の痛む思いがしてならない。願わくば、パンドラの箱に残っていると「いくばくかの希望」を頼りに、「はかない」が引き起こした「はかなさ」を乗り越えて行きたいものである。(2011.7.17)



日章旗を付けた「真岡鉄道のSL新年号」

撮影 47年卒 藤井隆氏

私の近況

04年卒 木嶋 雅史

3月11日に発生しました東日本大震災にて亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げ、また被災された皆様、ご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。

震災前と全てが変わった世の中ですが、自分自身も誰かのために「なにかできることはないか」と考え、震災後の復興支援活動に時間を作って参加しています。義援金や献血の他に、所属しているマンガナイトという団体では「みなさんの自宅に眠っているマンガを被災地へ送ろう」と呼びかけたところ1日で全国から3000冊のマンガが無償で集まり被災地に届き、またサイクルボランティア・ジャパンという団体ではノーパンクタイヤを500台分企業様から無償で提供していただき、現地の自転車に装

着に足を運んでいます。その他、PartyTime というイベントでは参加者から元気になれる1曲を募り集めてmixCD「元気玉」を作り、友人を伝って被災地の工場や公民館などで流していただき、被災者の方々に喜んでいただいていたりと、アプローチを変えながら支援活動を継続しています。

日本には、「代受苦者」という「本来自分が受けていたかもしれない痛みや苦しみを代わりに受けてくれている人」を指す言葉があります。今回の大震災を生き残った一人として、被災された方々の苦しみを完全に理解することは難しいですが、自分にできることを探しこれからも地道ながら支援活動を続けていきたいと考えております。



“40年エレキという名の定例会”の紹介

40年卒 野末 佳伸

昭和40年の3月末に卒業した我々は、“40年エレキ”と言う定例会を開いています。

定例会の名は、何時の間にか付けられ、違和感がないため定着してしまいました。

定例会の入会規則等の煩わしい制約は全くありません。入学年度は不問で、卒業時のみ同期であれば有資格者であります。

この定例会は、1月～2月は2月上旬に1泊2日の新年会、4月～12月は毎偶数月の第一土曜日（17時～20時）に定例会、を開催しております。

今年の活動状況は以下の通りです。

◇新年会 2/3(木)～2/4(金)

熱海のホテルで泊込みで開催

(参加者：深井先生・島田・知覧・菅沼・林・山口(功)・井上(哲)・守田・福島・門原・野末)

チェックイン後は、入浴・宴会に始まり深夜まで懇親会・時事等を討論し(少々睡眠不足になる)、翌日は、屋上の露天風呂から日の出を眺め、朝食後は、ホテル付近の川の両岸で早咲きの桜を観賞、チェックアウト後は梅園まで散策し満開の梅林を見物、11時頃、次回定例会での再会を約して散会。特に、深井昌先生は、ホテルから梅園までの往復をご健脚で散策され、我々も負けじと頑張りました。



なお、全ての行事に最初から最後までご参加頂き気力と若さを示され、大変有難う御座いました。

◇一回目の定例会 4/2(土) 17:30

神田神保町(三幸園/中華)で開催

(参加者：島田・菅田・門原・知覧・林・山口(功)井上(哲)・藤本・福島・鳴原・縄井・野末)

康文君が卒業以来46年振りに参加、急には現実と思い出が一致しないため、お互いに自己紹介。その後は東北関東大震災直後でありましたので、

震災の話が話題になり、緊急提案により今回の参加者から義援金を募り、中大40年エレキ(有志12名)として赤十字社へ納付しました。

◇二回目の定例会 6/4 (土) 17:00

神田神保町(焼肉処/三幸園)で開催

(参加者 : 深井先生ご夫妻・島田・知覧・林・山口(功)・井上(哲)・守田・縄井・福島・菅田・都志見・吉田・野末)

誠に残念な事ではありますが、北陸・神奈川方面で“ユッケ”の事件が春先に発生しました。我々は年初から定例会の会場として計画していた事と、親友である同期のお店でもあり安心で、全く問題にしませんでした。それ故、予定どおり開催し、参加者全員で大変美味しくいただき大満足でした。

また今回は、深井 昌先生の奥様のご参加を賜り大盛会になり、その上、特別会員になって頂きました。今後もお参加頂けるとの事ですので、ご夫妻に見習い、毎回元気に参加しましょう。



◇三回目の定例会 8/6 (土) 17:00

神田神保町(三幸園/中華)で開催予定

昭和40年3月の卒業生は約140名ですが、住所不明者は約40名、物故者は残念ながら約10名、段々同期が減り寂しいですが、我々は未だ不完全燃焼です。是非とも生き方が消極的でなく、特に今までやった事が無い積極的な目標を定めて、気長に挑戦し、若返りましょう。それには、この会に参加して活力等を吸取る事をお勧めいたします。

服装は自由で、気楽に集い和気藹々とした雰囲気、時事・健康・近況等を閉会時まで語り合っています。人によれば一見無駄な事と思いますが、遊び・ゆとりが心の癒しになり、明日への活力を醸成する筈です。之をプラスにするかどうかは、ご本人が取捨選択することが大切ですが。

“40年エレキ各位”

是非とも 奮って ご参加下さい。



(注) 定例会の案内はE-Mailにて、開催予定日の3週間前頃に送信しています。

2010年度同窓会総会・懇親会の実行幹事役体験記

常任幹事(昭和40年卒) 山口 功 福島 弘 門原 健男

昨年(2010年)の同窓会総会・懇親会の実行幹事を昭和40年卒業の同期の皆で引き受け、度重なる準備打ち合わせ等を経て本番まで至った貴重な体験について、今後実行幹事役を引き受けられる皆さんの参考にもなるかと思い、ペンを取らせて頂きました。

<実行幹事役の要請を受ける>

今回の実行幹事役の話を受けたのは、2008年の懇親会の時で、2009年の実行幹事役は昭和47年卒の皆さんで既に決まっているので、その次の年の実行幹事役を引き受けてくれないかと、同窓会役員の方から依頼を受けました。しかし、そのような経験も心つもりも全くなく、どのような準備が必要で当日のプログラム遂行をどのように進行させ、それらのためにはどういう役割の人が必要かも全く見当がつかないので、よく検討してみても判断したいと、その場では即断できませんでした。そして、同期会の世話役をやっている人やメインに動いてくれそうな人たちに、メールを送り、協力してもらえるかどうか、総会・懇親会を盛り上げ有意義なものにするためのアイデア等について、相談しました。その結果、準備すべきことや当日の役割事項等について、列記してみて同期会の時にみんなで話し合ってみようということになりました。

<準備作業およびプログラム項目の検討>

たまたま、神田神保町の同期の者が経営する中華料理店で2か月に1回の割合で懇親会を開いていたので、検討すべき項目を列記してみることにし、2008年の式次第を参考に、更にその年の実行委員

長からも資料を送ってもらい、準備に取り掛かりました。最大の難題は、特別講演者と内容、懇親会の総合司会を誰がやるかでした。しかも、それらは早くから準備してもらう必要があるため、その人選をまず決めないと先には進められないと言うことで、特別講演を引き受けてくれそうな人への交渉をメールで始めました。そして、実行幹事役を引き受けられるかどうかを早急に返答する必要もあり、役割分担項目表を作成して同期会にはかりました。そして、おおむね実行幹事役を引き受けられることが確認できたので、その旨を回答しました。

<特別講演者の選定>

2007年から続く米国のサブプライムローンに端を発した金融危機は遂にリーマンブラザーズの破綻に至り、米国のみならず世界の金融市場を機能不全に至らしめる様相となり、これから先の市場経済および生産活動もどうなるか先が見えず、2年後の同窓会における講演のテーマおよび人選が難航しました。そうした金融市場の混乱期においても、新しく企業を立ち上げ順調に業績を伸ばしている起業家(林君)が同期生の中におり、彼に交渉してみたところ、兎に角やってみようと快く引き受けてくれました。

<役割担当者の選定と懇親会の内容検討>

隔月ごとの同期懇親会において、役割担当者の割り振りや懇親会を楽しく意義深いものにするためのアイデア等について、何度も話し合った結果、総会の方は年次総会であり、前年度の行事報告や会計報告と次年度の計画発表等の形式的な進行に

なるが、懇親会の方は形式張らずにぎっくばらんの楽しい雰囲気にした方が良いのではということで、余興などを取り入れたらと、楽器演奏や詩吟朗詠、カラオケ、ビンゴゲームなどの意見も出され、検討することにした。そして、実行委員長は古くから同窓会幹事を務めている山口、懇親会総合司会は同期会全員をうまくまとめて信頼の厚い井上君と野末君が最適ということで決定されました。

<2009年の総会・懇親会で様子見>

役割担当予定者は次の同窓会・懇親会に出席して、学習しようということで、2009年の総会・懇親会には同期生約10名が出席観察し、自分の担当役をどのようにすべきかを考えることにしました。詩吟朗詠予定者の嶋原君はその年でも予行練習的にやってみたり、受付担当予定者の吉田君は実際にその役を実習したりしました。

<協力者および参加者を増やす>

できるだけ同期の者に協力を求めるために、同期会幹事が同期生全員宛に郵送で参加を呼び掛けることにした。その結果、これまで連絡の取れなかった者からも応答があり、同窓会総会・懇親会を盛り上げるために会場に張る横断幕や皆で合唱する校歌や応援歌等の歌詞を掲げる大きな印刷物を持参参加したいとの連絡が同期生の横内君から入りました。その為には、会場の広さに合わせて横断幕や掲示物を作成する必要があるため、下見をということで、早速予約会場の担当者で連絡をとり、下見のできる日と時間帯を予約し、総会および懇親会会場の広さ、正面の横幅等を測定して掲示物と横断幕の大きさや掲示方法を確認しました。また、米国テキサス在住の同期生の西川君にもメールを送り、彼は米国の会社の大手電子機器メーカーのバイスプレジデントまで勤め、退職した後は趣味の水彩画に没頭し世界各地を回って絵を描

き米国の水彩画連盟の理事もやっており、2010年には念願の日米水彩画共同展をアメリカおよび日本で開催し、そのような定年後に自分の趣味を生かして有意義に過ごしている様子を特別講演で紹介してもらいたい旨のお願いをしました。同窓会役員会において特別講演を2件に増やすことを了解してもらうと共に、彼に講演来日を依頼し、その準備をしてもらうことを了解して頂きました。

<アトラクションとしての余興>

楽器演奏等についてはその持ち込みなどが大変で当事者も大変だということで取りやめ、結局機材を必要としない詩吟のみとなりましたが懇親会司会者が、参加者が楽しいリラックスできる雰囲気作りをするために、スピーチなどで工夫することにしました。写真撮影の担当者も決めて、特に集合写真は多人数撮影のためにカメラ内蔵ストロボでは光量が不足するため大光量ストロボを用意することにしました。

<会場担当者との打ち合わせと機材準備>

同窓会事務局長と共に懇親会総合司会担当の井上君、野末君、そして山口、福島、門原で当日会場の上野精養軒を訪問し会場担当者と最終打ち合わせを行い、機材等についても確認し、プロジェクターとパソコンは講演者（林君）が使用勝手に馴れたものを持ち込むことにし、アメリカから講演参加予定の西川君には林君に講演内容ソフトを事前に送ってインプットしてもらうことにした。料理や飲み物の予算等については天野事務局長から説明頂いた。

<そして当日の来場者を更に増やすために>

若い人が多く参加し易いようにと、在学生の参加費は無料とし、平成10年以降のOBの会費は半額に近い4000円とすることが常任幹事会で決定していたので、中大電気OBのミクシ会員にメール

で呼びかけ、大学の先生方にも参加のお願いメールをお送りした。その結果、在学生 3 名および先生方 3 名の方が来賓として参加頂き、平成年卒の若い方の出席者も増え、総勢 67 名参加（うち同期生 18 名）という近年にない多数のご参加を得、盛大で有意義な総会・懇親会にすることができました。さらに、1 歳のお子さんも連れて家族参加の同窓生もありました。

<実行委員を引き受けた意義>

こうして、2010 年の同窓会・懇親会は、40 年卒同期生一同が協力し合って成功に導き、連帯意識も更に強めることができた意義は非常に大きいと想われます。協力参加された同期生および全面的にバックアップしてくれた同窓会役員の方々、当日参加して会を盛り上げてくれた同窓会会員および

ご来賓の方々に対して、この紙面を借りて深く感謝申し上げたいと思います。

<さらに今年の総会・懇親会は>

後楽園キャンパスの 3 号館 10 階で行われることになっており、新装なった 2 号館の見学も兼ね、多くの同窓会員および在学生の参加を得て、益々盛大に挙行されることは間違いないものと確信しています。

追記：これらの画像は、同窓会ホームページに掲載されていますが、ハードコピーがご入用の方は、アルバムにもまとめていますので、今年と同窓会参加返信ハガキにその旨をお書き頂くか、懇親会の席でお申し出頂ければ印刷実費にてお譲り致します。



撮影 門原 健男 氏



親睦会で挨拶される菱沼同窓会長
(右側は総合司会の井上君、野末君)

応援歌合唱にも元応援団長に
熱が入りました



手を高く挙げての校歌合唱も
全員で大声をあげました

島崎藤村作詞の『惜別の歌』は、
皆で肩を組み合って楽しく合唱
しました



還暦を越えた輪「47遊会」が元気です

昭和47年卒 「47遊会」幹事団 (飯塚 信市、藤井 隆)

正式名は「中大理工電気47遊会」です。「47遊会(47で遊ぶかい?→ヨンナナユウカイ)」と呼んで、自選?幹事団6人で運営しています。

2004年(隅田川屋形船:日帰り)、2006年(浅草助六の宿「貞千代」:一部宿泊)、2009年(後樂園スパ「ラクーア」:一部宿泊)と続けるうちに同期会の愛称?として定着しました。

現在、昭和47.3の卒業生は把握している範囲で177名。その内メールアドレス(メルアド)が判っている仲間が76名います。住所不明者が46名、住所は判っていてもメルアド不明者が49名です。数字上からもお気付きかと思いますが、既に若くして亡くなられた方々が6名もいらっしゃる事も現実として受け止めざるを得ませんでした。

そこで、還暦も過ぎ、新しい生活を始めようとしている人も多い中、のんびり「1、2年に1回程度の同期会」でもないだろうとの声?に背中を押されて、2011.6にメルアドが判っている76名を対象に「同期会ならぬ“47遊会懇親会”」を開きました。会場となった新橋「大漁日本海庄や:日帰り」には、全国各地から23名が集まりました。

エピソードを紹介します。

- ① この集まりは元々4月に予定していましたが、幹事団の準備遅れに加えて、あの「東日本大震災」の影響で6月開催となりました。
- ② 出席できなかったメンバには、東日本大震災の復旧に直接携わっている技術者や、退職した後の新しい就職先への面接で出席できなかった人もいました。

- ③ 当日(6/3(金))は18:30開始までにほとんどが集結しました。流石、中大電気卒の誠実さでしょうか。事前に遅れると連絡があった人も「必ず行きます」の伝言通り駆けつけられ、全員出席!となりました。
- ④ 懇親会出席に併せて遠距離から奥様同伴で東京して、東京周辺の用事や観光を予定していた同期メンバが複数いました。これぞ、中大電気還暦夫婦の鏡!でしょう。これからは奥様を大事にしましょう!です。
- ⑤ 自己紹介の中で、同じ地域に関連のある仕事をしていたり、住んでいたり、同じ業種の仕事をそれぞれが個人事業者として行なっている同期同士がいました。
- ⑥ 宴会の後半、幹事団が作成した小冊子を参加者全員に配りました。そこには「貰った人毎に大学生時代の自分の超拡大顔写真」が綴じられていて、40年前の自分の顔に一同大爆笑!?でした。卒業アルバムから作成したものです。
- ⑦ 遠く「長崎、和歌山、静岡、群馬」在住の方々も交通費/宿泊費が自己負担にも関わらず参加してくれました。ありがたい限りです。

40年振りに再会を果たした人や、遠くから上京して頂いた人、体調を気にしながらもご出席して頂いた人、いよいよ年金生活を始めたばかりの人、そして、今も現役で責任ある立場で多忙な人など、「千差万別、十人十色」で話題があちこと飛び交ったのですが、「やっぱり同期同士の話は、ちょっと聞いても中身が見えてきてよいなあ」と実感しました。

「47遊会」のメルアド保有者には、毎月1回幹事団から「定期連絡メール」を発信しています。メールは76名全員へメーリングリストを使って自動的に配信されています。更に、幹事団員のボランティアで「中大電気47遊会ホームページ」が立ち上がっています。47遊会メンバであればいつでも情報が交換、検索できるようになっています。もちろん、セキュリティ保護の観点からメンバ以外からのアクセスは厳重にガードされる仕組みとなっています。

今度はメンバ全員（76+49名）へ声をかけて「次回の同期会の開催」に向けて、「メルアド登録」も促進して、「懇親会から同期会へ」拡大、充実して行きたいと思っています。益々、「中大電気47遊会」メンバの絆を深め、新しい生活サイクルを共有して行きましょう。

お問い合わせ：「47遊会」幹事長 飯塚信市

QYP00376@nifty.ne.jp



2004年



2006年



2009年



2011年

私の原発日記

昭和 44 年卒 田中 晴雄

3.11 週明けの火曜日、前からの約束の A 社の仕事を終えて次の訪問先、顧問をしている Y 社社長に TEL したところ、「タイ支社の弟から”東京が危ない”と、やいのの警告で今日は午後から休業にする」との事。この事をきっかけに私の原発メールは始まりました。

Sent 2011.3.16 To 顧問先 YMT 社 各位

前文略

一昨年(2009)の9月、所属している異業種会のメンバーで福島原発工場見学に行きました。

メンバーに福島第一原発の幹部の方がいて、かなり詳細な部分まで見学させて頂きました。

その折、災害時に備えて冷却用予備発電機の説明も受けましたが、今回、津波により 13 台あるこの冷却用ディーゼル発電機が全滅、原発の再使用を計って海水注入のタイミングも遅く、最悪の状態を迎えています。

①メンテナンス中の4号炉が何で再臨界に達するの？

②この事故はどうなると終わりでいつまで続くの？

解らないことが多いのでいろいろ検索してみたところ非常に判り易いホームページに辿り着きました。が恐ろしさは増すばかりです。

<http://www.nuketext.org/genri.html> (原子力教育を考える会)

①停止後の燃料棒が完全に冷えるまで 10 年もかかるのですね。

初期の段階で冷却が滞ると再臨界……大規模な連鎖反応が起きれば……現実に起きつつあります。

おそらくメルトダウンの状態に陥るのは時間の問題ではないかと思われます。

②この規模だと我々の寿命のうちには上がりにならないですね。

所定の冷却が出来た状態で継続的な冷却システム

を構築、再度の津波被害に見舞われないような堤防の建築、堅牢な建物で覆った上で付近 20~30Km は接近禁止地域・・・ほぼ永久的に。

後略

3号機の水素爆発をきっかけに憶測に近い情報も乱れ始めました。

Received 2011.3.11 from YMT 社 Y氏

前文略

聞くところによれば、福島第一原発の想定した津波は 0.7m とのこと、それも議論を重ねて十数メートルとの話しも出たそうですが、上層部の一言で決まったそうです。全く許しがたい気持ちです。

政府の発表も毎回、実態に合わせたシナリオを発表しているだけで、次の発表ではまた新たな問題が出てきますが、最後は判で押したように「大丈夫」「安全です」を繰り返しています。

みんなが知りたいのは、最悪のケースとはどのようなものなのか、最悪のケースとなった場合は実害としてどうなるのか、ということですが、これについては報道でも専門家の口からは全く出てきません。海外からの報道の方が、よっぽど正確なように思います。

Sent 2011.3.16 To YMT 社 各位

前文略

想定津波の件ですが情報元は二階堂.comですか？

この 0.7m という数値は信じがたいことで、写真からも見てとれるように防波堤の高さが満潮潮位より 0.7mの高さ、原発設置の海拔を含め5 m程度の津波対応といったところではないでしょうか。(あくまでも私の私見です)

4 年ほど前、松島旅行の帰りにフカヒレ鮨を食べたくて気仙沼へ行ったことが有ります。高い防波堤に阻まれ、道路からは全く海が見えず、海好きの私は「つまらないとこに来てしまった」と思いました。これが今回の津波では TV でみたとおりです。

福島原発の堤防の印象といえば「釣り易い防波堤だな・暖かな冷却排水に魚が集り釣れそうだな、立ち入り禁止だけ」です。

中略

「ところで、原子力発電所のやや北、南相馬市の状況を見ますと、10メートル以上の津波が来ていると想定いたしますと、熱を最終的に除去する熱交換機のある海水建屋まで、水没、ポンプの損傷が起きていてもおかしくありません。」今現在、高压送電線を設置しているところですがポンプが壊れていたのでは.....

この後3号機プルサーマルの件、政府の対応の件、東電の隠ぺい体質など数名の方と毎日のように意見交換をしました。

3月30日、TV等で紹介された故高木仁三郎氏が起こした「原子力情報資料館」の講演会に参加し、この時の感想を数名の方にメール、4月29日の「原発・吐露会」の資料にも使いました。42年度卒秋田隆史氏からも当時国内では発表されなかった爆発直後の鮮明な、写真の紹介を頂きました。

「原発・吐露会」については“中大電気同窓会”のホームページを参照してください。

この講演会の内容は今でも新鮮です。言い換えれば何も進んでいない。(7月20日現在)

Sent: 2011.3.30 To K氏、YMT 社 Y氏

今日、原子力情報資料館のシンポジウムに行ってきました。

中略

今日の講演会で私なりに収穫のあった事項。

①4号機のプールの燃料棒は使用済みではなく、定期点検中の為 運転中の炉心燃料の使いかけの物であること。

故に4号機で起こった事はむき出しの原子炉で起こった事と同じ事。

②再臨界は絶対に無いとは言えない。(1~3号機)

③4号機は再臨界が起こった可能性あり。(持続しない再臨界) 学者により意見は異なる。(何せ見えないのだから)

④炉の温度が400度に達したことの意味。

圧力容器の作業用のハッチのシリコンパッキンの耐熱が300度。

ケーブルの通線孔をシールしているエポキシの耐熱も同じ程度。

400度に達すれば漏れる。

⑤浜岡原発の件

浜岡原発では福島ので津波対策を強靱にしようとしているが、本当に怖いのは地震。

5基ある原発で1~4の揺れと、5号機の揺れが異なっていた。(5号機が大きいみたい)、これは地盤に均一性が無い事を示している。

(たぶん断層とかプレートとか・・・これは私の想像)

⑥トレンチの水の件

トレンチの水は溢れださなくても長時間水が溜まっていれば、

コンクリートの打ち方次第で漏れ出す。早く対処

しなければ。

早急にステン容器などに移さねばならないが非常に難しい。(誰でも思う)

⑦最悪のケースは

答えるにはデータが少ない、が最悪はメルトスルー、溶融燃料がメルトスルーすると、压力容器を破って、格納容器の床に落ち、コンクリートと反応する=コア・コンクリート反応が起き、大量の水素などのガスが出る。

格納容器の圧力が急激に上昇。酸素が加わると爆発の危険性も。

⑧チェリノブイリとの違いは

チェリノブイリは1機、福島は4機同時に起きている。(どっちが凄いか誰でもわかる)

6月初旬から始まったIAEAの査察をきっかけに水素爆発以後の緊迫した状況が小出しにされ始め、それを機に「東電」「原発」関係の記事が雑誌に頻繁に掲載されるようになります。

以下は、異業種交流会仲間のK氏からのメールをきっかけに「トリウム」について「原発吐露会」の参加メンバーの方に送ったメールです。

41年卒渡辺聡氏の返信も掲載させて頂きました。

Received: 2011.6.6 from K氏

6/11号の「週刊東洋経済」で「暴走する国策エネルギー原子力」と題して今までのウラン原子力発電政策の事が書かれています。

この中の「トリウム原子炉」が次代の原子力発電担うのではと言う記事が目を引きました。「トリウム溶融塩炉」と言うのがそれで、第四世代原子炉と言われているそうです。現在の第三世代「軽水炉」より安全性は格段に高いそうです。

最後に核廃棄物が出るのは変わらないと思います

が。

今日ラジオを聞いていて、哲学者の「大沢まさお」さんが今回の震災復興と原発事故復興の政界騒ぎについて、「弱いチーム」の典型的なドタバタ劇と書いていました。「弱いチーム」は本来味方である誰かの失敗を責めて自滅する。一体となって敵に対抗せず内部崩壊するのだそうです、その通りですね。

又、原発問題は「民主主義」の限界を超えた問題であると言う。それは「これから起きる原発事故のツケ」は現世代でなく、まだ生まれてない人々(決定に参加出来ない)の運命を今生きている人が勝手に決めると言う事。まあ歴史とはそんなものですが、タイムマシンが欲しい、未来を見て来て今何をすれば良いのかと。

Sent: 2011.6.6 To 「原発・吐露会」参加各位

久しぶりに原発の話です。

このメールは過日の吐露会出席者の方々にお送りしています。

中略 「トリウム溶融塩炉」と言うのがそれで、第四世代原子炉と言われ、現在の第三世代「軽水炉」より安全性は格段に高いそうです。

「トリウム」についてネットで調べてみました。

日本にも「トリウム学術委員会」というのが有りました。

世界的にトリウムの導入を阻んだのは冷戦 U-Pt ⇒核兵器。

恐ろしい構図が見えてきます。核兵器。

恐ろしい構図が見えてきます。

Received: 2011.6.11 from 41年卒 渡辺聡氏

資料をありがとうございます。トリウムは原子燃料の扱いで、トリエーテッドタングステンといって昔から真空管の陰極、すなわち電子放出材料に親しく使われています。

岩崎電気などは、これをトリウム粉として扱い、高圧ランプの陰極に加工、使用しています。故に放射性同位元素使用許可を得て扱っています。

また鉱物の副産物としてかなり得られ原発燃料用に研究されている事も承知しています。

ご存じの、S氏はD社を解散した後にD鉱業で廃棄物から貴金属等鉱物の回収を手がけていましたので、以前にトリウムについて聞いてみた事があります。とても商売にならないという返事です。

すぐに利用しようとする、準技術上の問題だけではなく、GEはじめ過去の所有利権や各国の思惑があり、技術進歩だけでは解決しない問題だろうと思います。

国が研究に力を入れるようにならないと、とてもでしょう。

中国あたりは？やっているかもしれません。風の便りですが？

いまの原発問題も利権からくる人の奢り、批判者の意見を採り入れない行政の政策でしょう。故に国会が（今は烏合の衆の集まりに近い）が賢くならねば。

トリウムも主体的になれば利権が優先して、結局同じ事を起こしますよ。文化系人間主体のサガでしょうか。

いずれにしても、技術系の学生が増える政策でないと、将来も危険は無くならない。風力だろうと、水力であろうと、太陽エネルギーであろうと必ず副作用が出てくる。どれが御し易いかでしょう。昔、早稲田のI先生がO社の顧問をしていたときの講演で、太陽電池でエネルギーを奪いすぎると、地球が冷える。

そうなったとき恐ろしい！！

予測は予測、実際に起こってみなければわからない。

起こってからでは遅い。被害者はたまったものではないから。

でも、そこに限りないデータが出てくる。そして対策が考え出される。結果、技術進歩する。

技術者も愚かだよ。データが無いと対策できない。

そして予測すれば間違いだらけ。けっか堂々巡り？

きりが無い。

最後に。

4月9日フジTVで「天使と悪魔」という、「ダビンチコード」の第二話の映画が放映されました。

あらすじは、欧州原子核機構（CERN）の研究者が取り込みで成功した反物質を、奪った犯人が、バチカンの枢機卿を決めるコンクラーヴェに利用するもので、上空で空気に触れ爆発してしまうのですが、反物質の研究者が最後に言った言葉がこれです。

「電力会社の手に落ちなくてよかった」。

（余談ですが、実際に、2011年6月6日CERNは16分間反物質の閉じ込めに成功しています。）

7月14日に行われた”中大理工学研究所2011年度特別講演会「第一線の研究者が語る3.11東日本大震災”で司会の「國生 剛治・都市環境学科 教授」が言われた言葉

「人間は自然を知らない、もっと恐ろしいことには人間は自然を知らないことを知らない」

この言葉はそのまま「自然」を「原子力」に置き換えられるのではないのでしょうか。

政府の要職者、産業界の重鎮は本当に原子力を御することが出来ると思っているのでしょうか。

私に言わせれば「狂気の沙汰」です。

“不幸中の不幸”：福島第1原発事故のコンプライアンス [倫理的正義の遵守] の検証と自己反省

39 年卒 技術士 菱沼 一夫

1.はじめに

改めて東日本大震災で亡くなられた方々、被災した方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。東日本大震災によって起こった福島第1原発の暴走は直接的な避難者や地元の産業に携わっている方々には「憤り」、「不満」、「やるせなさ」、「健康不安」、「将来の不安」、「日常生活の崩壊」、「愁傷」、「挫折」、「不信感」、「落胆」・・・等々のどんな言葉を並べ立てても言い表せない苦痛がある。

私は1958年に就職した。『企業教』の元で自分の会社の利益向上に猛進する“企業戦士”として30数年の間、“第1線”に身を置いていた。この期間は原子力発電の創生期から発展期と重なる。この時代は大量生産、大量消費の活動が錦の御旗であり、企業の経営責任は「増収・増益」であった。そして今日の金権主義／大消費(浪費)社会の礎を作ることになった。大消費の基盤は大電力供給が不可欠であり、(戦国時代の大昔から培われている日本社会の隠蔽体質は)重大な“不具合”を公開させず闇の中で取り仕切ることが常道となっている。少なくとも40～50年、今日の日本社会(諸国にも影響している)の形成に関与した1分子(一国民)として、真摯に努力をしてきたと思っていた自分の生涯の結

論が、まやかしを擁護して、原発の暴走の一端を負っていると思うと日増しに愁傷の念が増幅している。

原発事故の直接的な因果関係は政府の事故調査委員会の検証に期待したいが・・・。東電や行政の責任は絶対免れないし、許しがたいが、一国民として、今日の結果を招いた連帯責任を抱かざる得ない。

酷な話だが、多くの方々もこの思いで、原発事故を総括して戴きたいと思っている。今迄の社会を作り上げてきた正直な検証と反省が次世代への贖罪ではないだろうか。

本稿は事故発生後、私の日々の愁傷の中から、世間で取り上げられた《事項》を「技術士」の社会的責任の自覚の元に念入りに検証した。その検証の対象は以下の関係者を意識している。

【原子力科学者、教育者、技術者、電力事業の関係者、政治的推進者、行政者、原発反対者、評論家、マスコミ、関連技術士、弁護士：順不同】

紙面の都合で最終表現が多くある。論点の根拠資料はファイルされている。ご希望の向きにはコピー等の提供は厭わない。

2. 事故に繋がった「隠蔽」、「ごまかし」—暴走の客観的検証—

2.1 福島第1原発暴走の特徴

大震災において福島第一原発が暴走した客観的事実が「不幸中の不幸」を起こした原因を内在している。

- (1) 同じ敷地の5号炉、6号炉(定期検査中)は暴走していない。
- (2) 1-3、4号炉(定期検査中)の暴走は同様の

現象を示している。これは暴走に結びつく絶対的な共通要因があったことを証明している。

- (3) 地震被災地の福島第二原発、女川原発は大事に至っていない。

関連原発の着工／運転時期の年表を表1に示した。

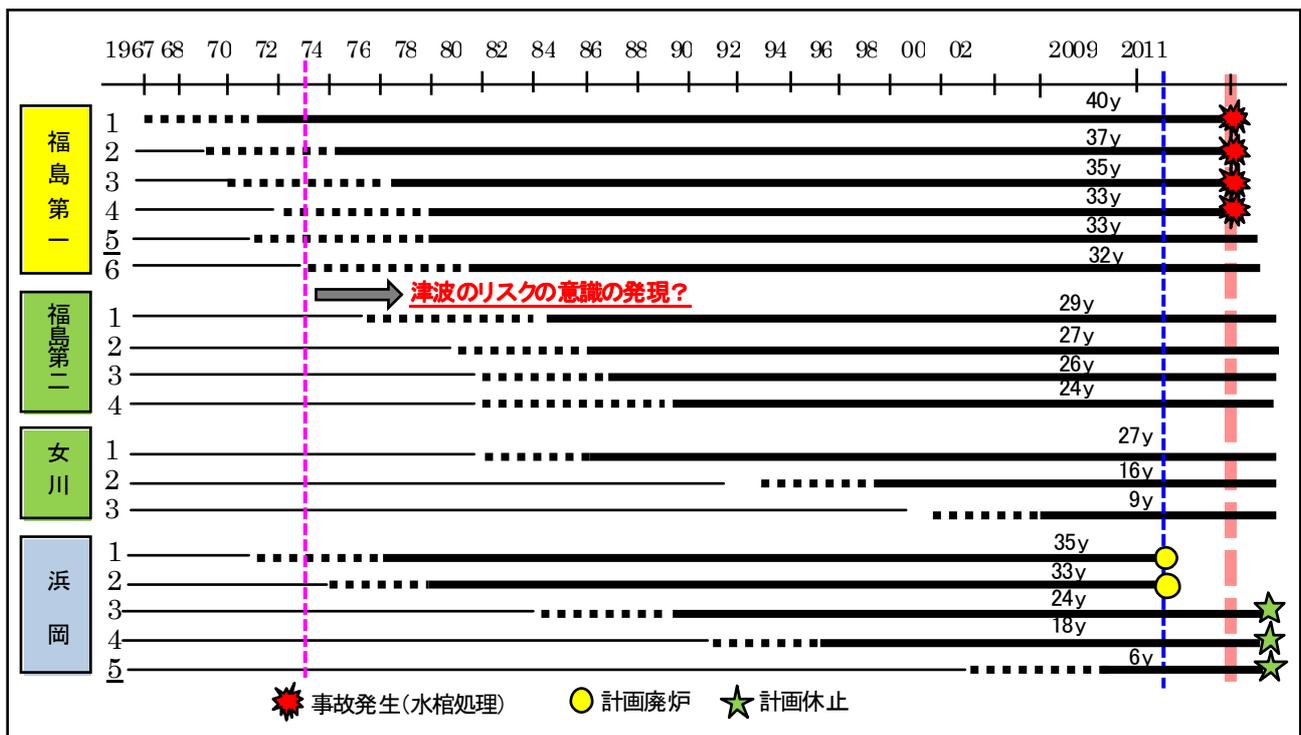


表 1 関連原発の起工と営業開始マップ

公的な報告では 1-3 号の原子炉は
 ≪14:46≫ 正常な非常停止シーケンスで臨界運
 転状態から冷却状態に自動で移行。
 ≪14:50頃≫ 第 1 波の津波が到達。
 ≪15:42≫ 非常用ディーゼル発電機が故障停止。
 全交流電源停止。(多分、津波による水没で一連の
 設備の流出又は機能の停止) 事故の起きた原子炉建
 屋周辺は 10m の防潮堤は崩壊して、14m の津波で
 プラントは冠水している。
 約 2 か月後の 5 月 16 日の東電発表 (5/17; 東
 京新聞) では 1 号機の非常用復水器は本震直後から
 作動せず、地震による設備の破損が起こっていた可
 能性があるとしている。

更に 1,2 号機の原子炉冷却水(純水)の注入配管が
 損傷。耐震設計の見直しが必要としている。(5/
 24; 東京新聞) 1 号機は炉内温度が上昇してメルト
 ダウン (炉心溶融) を起こしている。
 原発の運転上の安全性は
 ①設備の機械的設計の安全性の是非
 ②長期使用の金属疲労対策 (定期検査)
 ③設計条件内の運転確保
 ④確実な非常停止
 の確保が絶対的要求である。『5つの壁』は適格
 ではない。

2.2 200 万 kw 級のエネルギー遮断のトランジェントの復習と実際の検証

原発には火力発電と同様に大きなエネルギー系
 が二つある。一つは発生蒸気系である。二つ目は蒸
 気の復水系である。この系では発電出力の約 2 倍の
 エネルギー移動がある。トランジェントの状態では
 200 万 kw クラスのエネルギーを短時間に制御する
 必要がある。

沸騰水型のエネルギーの移動系の概念図を図 1 に
 示した。
 原発は炉の耐圧安全性を得るために、火力発電よ
 りも低い蒸気圧を適用しているため、発電効率は火
 力の 40% より低い 33% 程度と言われている。もし
 75 万 kw の電気出力を得ようとするれば、熱出力と

して約 227 万 Kw の蒸気を取り扱う必要がある。約 150 万 kw の熱は復水器を通して海中に放出されている。

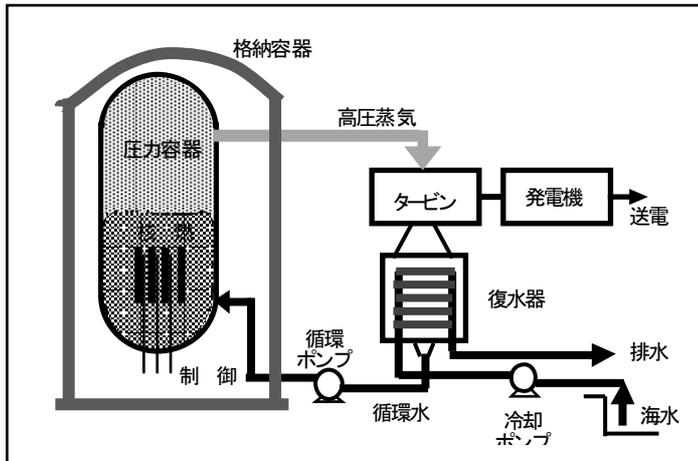


図1 沸騰水型原子炉の熱エネルギーの移動系

実際に福島第1原発の2,3号機の蒸気流量は4,440 t/h (286°C) 復水器から圧力容器の戻される水量は3,750kwのモータで7,570t/h (2t/s)が循環されている。この冷却に約16万2000t/h (45t/s)の海水が復水器の熱交換器に通水される。

非常停止では臨界状態を回避するために先ず制御棒が挿入される。この時間は2分程度である。

しかし、臨界状態が停止状態になっても、崩壊熱は直ちにゼロにはならない直後は10%程度の発熱があり、非常停止と言えども8時間程度の時間を掛けて徐々に冷却する必要がある。今回の事故はこの冷却プロセスがほぼ喪失している。更に0.1~0.3%の発熱になる間の数か月以上の冷却の継続が必要である。4号機は未だ大量の冷却が必要な大きい発熱の状態であった。

もし冷却が止まるとウラン燃料本体は3,000°C以上になると言われている。燃料のウランはペレット状に成形され、ジルコニウムの円筒に詰められている。通常は核分裂によって生成されるセシウムやプルトニウム等の放射性物質はこの円筒に閉じ込められるので、放射線は放出しても粒子の拡散はない。ジルコニウムの融点は1,852°C、ウランは1,132.2°Cである。しかし、燃料棒の冷却に失敗すれば、ジルコニウムの保護管やウランペレットの溶解は明白であり、溶解物は圧力容器の底に落下する。20 cm以上ある圧力容器の鋼鉄の壁も高温の溶解塊で溶け、溶解ウランは圧力隔壁内に落下する。これが所謂、「炉心熔解」(メルトダウン)である。圧力容器内の圧力はもはや制御不能になって爆発を起こし、燃料棒内の超ウラン元素 (TRU) が大気中に放出される。今回は最悪のこの状態を起こしてしまった。それも1基ではなく4基で起こったと推定されている。今回の事故は、例えば1か月前位に完成した新品の原子炉であっても事故の起きた場所に設置されていれば暴走は免れなかった特徴がある。

個別危機の設計欠陥や老朽化に関係なく、今回の暴走は立地条件を含む非常停止システムの基本設計に起因していると断言できる。すなわち立地設計の際に津波を10m以下に推定した間違いが原因である。冷却機能の確保(≒電源喪失の絶対的防御)

2.3 原発の安全神話：『5重の壁』はどのように機能したか

原発運転している電力事業社とその関連企業が加盟している電気事業連合会は原子炉の安全性を『5重の壁』を発信して、国民に原子力発電の安全性を啓蒙している。所謂「安全神話」の教本である。(原子力安全・保安院も間接的に関与している)

第1の壁：ウランをペレット状にした。

第2の壁：ジルコニウムの被覆管にペレットを入れた。

第3の壁：燃料棒の入る場所を圧力容器にした。

第4の壁：原子炉本体を格納容器で密閉している。

第5の壁：原子炉建屋で格納容器で覆っている。

しかし、今回の事故では冷却機能の喪失で、こ

これらの壁はほとんど役に立っていない。

『5重の壁』のまやかしは、ウラン燃料の物質が一般環境に拡散しないように「静的」な配慮をしているに過ぎない。ほとんどの電力会社はトドを組んでホームページに羅列しているのに過ぎない。

関西電力ホームページには、冷却機能の確保が必

2.4 隠蔽、無視された問題提起。

こんどの事故は当初「未曾有」とか「想定外」として大々的に報じられていたが、良識ある多くの指摘は建設当時から多々なされている。

筆者が発見したものを時系列に以下に列挙する。全く後の祭りであるがどうして実行に移さなかったのか？

関係者の謙虚な「反省」、「自己批判」こそが改革に不可欠ではないだろうか？

浜岡原発の1,2号機の廃炉と計画停止は賞賛に値すると筆者は思っている。

★事故は想定外ではない

(1) 国政の場で指摘されていた

① 06年3月1日 衆議院予算委員会 地震と津波で電源と冷却機能が失われて可能性を指摘
吉井英勝議員（日本共産党）

② 10年5月26日 経済産業委員会 巨大地震に直面した時、自家発電も停止したらどうなるか？

原子力安全／保安院の答弁；崩壊熱（菱沼註；当初は出力の約10%）の冷却が必要。非常電源の複数化又は他の方法で冷却の継続が必要
吉井英勝議員（日本共産党）

※吉井英勝議員は2011/4月26日の衆議院予算委員会で海水注水が遅れたのは廃炉になることを懸念したのではないかの質問をしている（註；菱沼が追記）

③ 08年4月 参議院災害対策特別委員会；新潟

要であると小さい字で添え書きされている。少しの良識を感じられた。

原子力安全・保安院は2011年4月9日になってやっと“多重防御”が機能しなかったことを認め安全規制に甘さがあったことを認めている。（2011年4月29日；産経ニュース）

県中越沖地震で柏崎刈羽原発で発生した火災を踏まえて 佐藤正久議員（自由民主党）

④ 07年5月 参議院行政監視委員会；07年3月福島第1原発3号機で発生した定期点検中の臨界状態を踏まえて近藤正道議員（社民党）

《①－④の出典》

[東洋経済オンライン；2011-3/26 配信]

⑤ 2006年「原発耐震設計審査指針」を改訂；これを受けて基盤機構が09年から様々な地震被害を想定した研究を開始。

→ 1970年代に開発された沸騰水型（福島第1の2,3号機を想定）出力80万kwで冷却電源が喪失すると3時間40分で圧力容器内の圧力が上がって容器が破損、炉心の燃料棒も損傷、格納容器は高压に耐えられず6時間50分後には破損して、放射性物質が外部に漏れるとしていた。（2011/4月4日読売新聞）

⑥IAEA07年「安全委」と「保安院」の役割の不明を指摘、保安院、問題点公表せず [2011年7月29日；東京新聞]

(2) 直接関係した技術者は“欠陥”を指摘していた。

① GE エンジニア；デール・ブライデンボー& GE Three マークIの設計者；冷却機能の規模が小さい

② 田中 光彦氏（現科学ジャーナリスト；日立バブコック）福島第1の4号機の圧力容器の変形修復の設計担当者 [週刊朝日；2011-4/01]

- 号]、「原発はなぜ危険か」1999/1月刊
- ③ 菊地洋一氏（現鹿児島大学非常勤講師）
東海第2（78年運転開始）と福島第2の建設を
担当 [週刊朝日；2002-9/20号]
- ④ 大前研一氏が日立を辞めた理由（2011-
4/24；Newポストセブン）
- ⑤ 「東海地震の危機」作家広瀬 隆氏 [週刊朝
日；2010-11/26号]

- ⑥ 東芝元社員：M9や航空機の墜落を想定した提
言に対して「千年に一度とか、そんなことを想
定してどうなる」と一笑された。1970~1980年
頃（2011/3月23日読売新聞）
- ⑦ 津波を軽視して、福島第1原発の敷地は海拔
35m台地を25m削って建設。
（海水取水電力の軽減化；**図1**の海水取水ポンプ
（45t/s）の揚程の軽減化（経費削減；儲けの優先）

2.5 原発の発電コストは本当に安いのか？

原発の発電コストは原発運転している電力事
業社とその関連企業が加盟している電気事業連
合会が2004年に提示した「モデル試算による各
電源の発電コスト比較」が試算根拠になってい

る。その試算は稼働率；80%、運転年数；40年、
単位は（円/kwh）である。2004年以降に改訂デ
ータの更新がされていないので批判されている。

表2 電気代のコスト比較

提起者	原子力	火力	水力	LNG
電気事業連合会 (2004年)	5.3 (80%、40年)	5.7 (石炭, 80%, 40年)	11.9 (80%、40年)	6.2 (80%、40年)
地球環境産業技術 研究機構(稼働率)	8.1~12.5 (60~85%)	8~12 (60~85%)		
	15 (50%) ※			
大島堅一 (国費投入補正)	10.68	9.9	7.26	
20兆円の災害補償 を東電の原子力発電 コストに反映すると [菱沼一夫試算]	30.77 (50%) 【追加分】			

※ [菱沼が現状の稼働率を適用した補正計算結果]

過日（2011年7月国会論議）の論議で原発コス
トの質問があった。しかし当局は明快な答弁ができ
なかった。再調査して回答することになっている。

電気事業連合会の提示したものに対して識者の
コメントを列挙したものを表2に示した。併せて福
島第一原発の事故の災害補償財源（20兆円と筆者
が仮設定）を東電の全原発（17基）の発電コストに反
映した場合の電気料への影響を筆者が試算したも

のを併記した。20兆円と設定すると30.77円/kwh
の追加になる。もし王道の対策を取っていたら電気
料への反映は1ケタより小さい額で済んでであろ
うし、社会的信用を失うことがなかったのだが・・・
と推定され、隠蔽、ごまかしがいかにもコスト高にな
ることを示している。

3. 「脱原発依存」、「脱原発」、「縮原発」をどうするのか？

災害に伴う原発事故で原発に対する意識は顕在化した。さあどう収斂するのか。他力本願ではなく一人一人が明確に意識すべき時がきた。

電力が不足すると海外に出ていく企業が増えて雇用が減退すると短絡的な論理を展開する経営団体のトップがいる。「がんばろう日本」の掛声はどこに行くのだろう。

もはや政治家に任せても課題はうやむやにされる危険がある。一人一人の良識をどう集約するかにかかっている。

以下のような苦悶がある。

- (1) 今までのような生活がしたい。だけど放射能汚染のリスクはいやだ。
- (2) 安全のためには、少々の不便を我慢する気になれるか？
- (3) 科学／技術の信頼を回復できるか？
- (4) 受益者責任として数十年程度の間隔で起こるであろう“不幸”を容認できるか

- (5) にわかに脚光浴びてきた「トリウム」の核エネルギーなら受け入れられるのか？
- (6) レアメタルの副産物として始末に困っている「トリウム」を見捨てられるか？
- (7) 中性子を吸収して太ったプルトニウム（ウラン238の変異体）の処理はどうするのか。
- (8) 自然エネルギー（太陽エネルギー）と言えども無尽蔵ではないこと理解する必要がある。
- (9) 利用できる太陽エネルギーは約 $1\text{kw}/\text{m}^2$ である。現在の太陽電池では $200\text{w}/\text{m}^2$ が限界である。今までの出力量の確保は難しい。
- (10) 諸国が期待する日本の原発技術の展開の要請をどのように受け止めるのか
- (11) あなたは消費傾向を変革できるか
- (12) 帝国主義国家は原発を利用して、核兵器用のプルトニウムの生産を行っている。言語道断である。

4. 関係者のコンプライアンスの課題：

4.1 各位の振り返りのヒント

・原子力関係の科学者：本当に科学者の自覚で行動しているか？ 権力に従順していないか？

歴代の原子力安全委員会の委員長は「自分たちの認識は間違っていた」と陳謝した。あなた達の教育を受けて社会で活躍している人達になんというのか？

・原子力関係の技術者：あなたの展開する技術を科学が証明している“不具合”を承知しているか。クリティカルな条件の安全性の範囲を明確に提示しているか？

企業の儲け主義に加担していないか？技術者の良識を意識しているか？

・関連企業の経営者：青春時代、下積み時代を思い起こせ。保身、企業の儲け優先の経営者は即辞める。

・政権：政治屋ではなく政治家として行動せよ。ぶれるな。

・行政：国民、県民、市民のために行政せよ。原発再稼働の「やらせの世論作り」は最低。国民を

侮辱。関係した官僚は即刻首。

・マスコミ：的確なポピュリズムを追求せよ。大衆迎合はマスコミの仕事ではない。

・技術士、弁護士は機能したか？

【技術士の使命】

技術士法第1条（目的） この法律は、技術士等の資格を定め、その業務の適正を図り、

もつて科学技術の向上と国民経済の発展に資することを目的とする

【弁護士の使命】

第一条 弁護士は、基本的人権を擁護し、社会正義を実現することを使命とする。

2 弁護士は、前項の使命に基き、誠実にその職務を行い、社会秩序の維持及び法律制度の改善に努力しなければならない。

取り上げさせていただいた各分野の方々の中には評論、執筆、ジャーナリズム等で独自の活動をなさっている方々がいらっしゃいます。それらの方はどうぞお見過ごしをお願いします。

4.2. 社会の“悪の根源”

民主党のリーダ的な立場にある代議士が兼ねてから日本の政治を壊しているのは次の4者であると嘆いている。

順不動、() は筆者註

- (1) 官僚 (註 ; 独善、隠蔽)
- (2) 大企業 (註 ; 利益優先企業)

- (3) マスコミ (註 ; 科学的検証の粗末なコメント、報道)
 - (4) 学者 (註 ; 体制順応型コメント、御用学者、教育の偏向)
- 政治家でない政治屋 (派閥で行動する政治屋)

5. まとめにかえて

震災当時、私は家にいて国会中継を見ていた。テレビの画面に地震速報が出てから 1 分以上経って揺れがやってきた。重みのある揺れは自分の人生では感じたこともないものだった。国会で討論していた議員の戸惑う姿を見ているうちに停電になった。

地震が来てから夜の 10 時ころまで停電は続いた。道路の信号も消えた。私は戦中と戦後の停電を経験しているから停電でも戸惑うこともない。中学 1 年の孫と共に、明かりが一つもなく、真っ暗な街中を人々がどのように反応しているか見て回った。

その後の数日は計画停電があって、暗いテーブルを囲んだ夕食を持った。電力の不足が自分たちの生活にどのような影響を与えるか特に孫には実体験の良い機会になったと思う。

震災に伴う原発事故は簡単に気持ちの整理/整頓ができるものではない。

特に戦後の日本の工業経済の発展の根本から見直しを迫られている。

本稿は 4 月に開催した福島原発事故の『吐露会』

をきっかけにして更に深い検証と反省を行ったものである。

これからは事故原因の究明や責任問題の追及が多々起こるであろう。自分を含めて、責任ある人々は責任回避に陥ることなく、率直に僅かな部分も隠さずその要素と行動理由を披露してもらいたい。

金権主義、モノ主義から健全な思考改革のために“不幸中の不幸”が“不幸中の幸い”に転じることを期待したい。

本拙文が各位の抱える「愁傷」の論理的な「吐露」や意識改革の一端になれば幸いである。

本稿は 10 月に各位の手許に届く。日本の新たな改革が新規の政治体制でどのように展開しているか興味がある。

2011 年 8 月 11 日

菱沼 一夫 ; 技術士 (経営工学)、博士 (農学)

e-mail: rxp10620@nifty.com

同窓会新会員のご紹介

昨年に引き続き新会員の入会勧誘方法を、卒業・修了の予定者各人宛に氏名を予め印刷した「勧誘の文書」と「払込取扱票」を、これも記名済の封筒に入れて各研究室を訪問して学生達に直接手渡すことにしました。

入会の手続きを完了された方々を以下にご紹介致します。会員一同は、新入会員を心から歓迎し、今後の同窓会の発展を共に力を合わせてまいりましょう。

★ 入会された方々のお名前（2011年5月7日現在）

● 学部卒業生

佐野太悠さん（木下研）、 花岡明日菜さん（木下研）、 中村正樹さん（木下研）、
島村和樹さん（木下研）、 東 竜也さん（築山研）、 平野春香さん（築山研）、
中山大輔さん（二本研）、 宮之前大地さん（二本研）、 石田淳一さん（久保田研）、
吉野慎也さん（久保田研）、 中村亮太さん（久保田研）

● 大学院修了生

黒崎保亮さん（木下研）、 小磯卓也さん（杉本研）、 鈴木優宏さん（杉本研）、
中澤啓悟さん（杉本研）、 長野克政さん（二本研）、 松原豪大さん（二本研）、
藪原 穰さん（二本研）、

● 既卒入会者

加藤木 聡さん（平成 16 年卒）、 小島由大さん（平成 20 年卒）、
花井一元さん（平成 22 年卒）

● 在学中入会者

山川真功さん

以上合計：22名

訃報 この1年間に訃報に接した方々です。謹んでご冥福をお祈り致します。

黒崎勝吉さん（昭和 29 年卒） 会田精一さん（昭和 33 年卒） 小野元久さん（昭和 33 年卒）
岩間信行さん（昭和 35 年卒） 内藤熊二さん（昭和 35 年卒） 黒崎光吉さん（昭和 56 年卒）

会誌発行事業費の集計報告 (その10)

会誌47号発行以降に皆様から寄せられました「会誌発行事業費」について、集計結果とご協力頂きました方々及び今まで発行した会誌に記載漏れの方々のご芳名を報告いたします。尚、複数回御協力戴いた方々もおりますが初回のみのご芳名掲載と致します。

皆様のご協力に役員・幹事一同心より感謝申し上げます。今後も引き続きご協力をお願い申し上げます。

● 会誌発行事業費集計報告 (2011年6月30日現在)

申込総口数：467.8口

申込総人数：333人

申込金額計：2,355,000円

収入金額計：2,338,800円 (振込手数料20,200円差し引き後)

● 会誌発行事業費納付者ご芳名 (卒業年順)

北川 健二 殿 野末 佳伸 殿 福島 弘 殿 横内 隆昌 殿 林 正博 殿
平野 博文 殿 今泉 俊克 殿 長崎 素之 殿

● 会誌発行事業費・終身会費の納付先口座のご案内

引き続き、昭和年代に学部を卒業された方は
会誌発行事業費：1口 5,000円 1口以上何口でも、

平成年代に学部を卒業された方は「終身会費 (1万円)」の受付を行っておりますので、同窓で未納或いは未入会の方がおられましたらご協力お願いの声をかけて頂き、下記の口座をご紹介下さるようお願いいたします。

また、既に一度「会誌発行事業費」をご納付された方も再度のご協力を頂ければ幸いです。

【 郵便振替口座 】

口座番号：00130-7-752276

加入者名：中央大学理工学部電気・電子工学科同窓会

通 信 欄：住所・氏名・学部卒業年および「会誌発行事業費」か「終身会費」の
いずれかの納付であるかを必ずご記入下さい。

【 銀行振込口座 】

銀行名：三菱東京UFJ銀行

支店名：春日町支店

口座名：中大電気同窓会

口座番号：(普通) 0286586

注意事項：同窓会HP (<http://www.elect-chuo.com/>) 「事務局への連絡」経由で

1. 振込年月日
2. 学部卒業年 (年度ではありません)
3. 郵便番号、住所、自宅電話番号

をご連絡下さい。理由は、銀行口座ではお名前のみしか分からないためです。

会計報告

平成21年度会計報告

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

本会計報告は、平成22年11月20日に開催された平成21年度総会にて承認されました。

収入の部

前年度よりの繰越金	2,096,834円
平成21年度総会会費	364,000円
預貯金利息	675円
終身会費	110,000円
寄付金	12,100円
会誌発行事業費寄付	55,000円
協賛金(修論発表会等)	120,000円
(アイコンテクノ(株)様、(株)ウッズ様、シチズン千葉精密(株)様、菱沼技術士事務所様)	

収入合計 2,758,609円

支出の部

平成21年度総会費	314,330円
通信及び印刷費	332,500円
事務・運営費	51,433円
名簿関係事務費	30,000円
慶弔費	0円
修論同窓会賞副賞	87,300円
次年度繰越金	1,943,046円

支出合計 2,758,609円

上記、平成21年度会計報告の収支計算は、適正に表示しているものと認める。

平成22年5月25日

築山修治 印

平成22年度会計報告

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

本会計報告は、平成23年11月19日開催予定の平成23年度総会にて承認を諮る予定です。

収入の部

前年度よりの繰越金	1,943,046円
平成22年度総会会費	410,000円
預貯金利息	231円
雑収入	2,500円
終身会費	240,000円
寄付金	9,000円
会誌発行事業費寄付	50,000円
協賛金(修論発表会等)	90,000円
(アイコンテクノ(株)様、(株)ウッズ様、菱沼技術士事務所様)	

収入合計 2,744,777円

支出の部

平成22年度総会費	320,870円
通信及び印刷費	320,670円
事務・運営費	32,663円
名簿関係事務費	30,000円
慶弔費	0円
修論同窓会賞副賞	77,600円
次年度繰越金	1,962,974円

支出合計 2,744,777円

上記、平成22年度会計報告の収支計算は、適正に表示しているものと認める。

平成23年5月11日

築山修治 印



同窓会財務委員会より

財務委員長：昭和 57 卒 **辻 正吾**

2011/07/15

OBが大学や学生時代の友人との交流が必要になった時、同窓会がその交流の門戸を常に開いているためにはまず存続していなければなりません。存続を支えているのは会員であり、財務的には新規加入者数が重要です。

新規会員数が一時低迷傾向にあった状況も徐々に回復しつつあり、会員、大学間の交流が世代を越えていっそう充実することを期待いたします。とくに卒業後の同期諸氏や大学との交流には同窓会の意義が大きく、ホームページの菱沼会長の就任の所感にも述べられていますが、「同窓会員のための同窓会員による同窓会活動」がすべてのOB世代で実現するよう幹事一同取り組んでいます。課題である常任幹事の世代構成について、常任幹事が各卒業年より選任され、各世代の意見を活動に反映できる幹事会を組織していかなければなりません。会員各位におかれましてはホームページよりご意見ご希望、近況、所感などお寄せください。ご参加とご協力お願い申し上げます。以下のイベント、交流、情報交換により活動が活発になることを望んでいます。

---懇親会（2011年11月19日、於：理工学部）へのご参加をお待ちいたします---

毎年開催する同窓会総会・懇親会に同期の皆さんで誘い合わせてご参加ください。

第一期卒業生から在学生まで、同窓会員、未加入のOBを問わず参加できますので、年に一回のこの機会をご利用いただき、同期会としてもご活用ください。2011年は理工学部キャンパスにて懇親会を開催しますので、ぜひお出かけください。ホームページには同期掲示板も設けていますので参加者の呼びかけなどにご利用ください。

所在が不明な同期生も会員であれば事務局にて確認できますのでお問い合わせください。また、同窓会未加入の方は会場で加入を受け付けていますので、お誘いの未加入同期生にはこの機会の加入もご検討いただきますようお願いください。

---修士論文同窓会賞審査へご参加のお願い---

大学院生の増加により、論文審査に新会員の積極的なご参加を期待しております。昨年まで研究してきたテーマをOBの立場から審査にご協力お願いいたします。ご多忙とは思いますが、この機会に研究室を訪れ、先生方やOBとの交流も大学とのよい関係の維持に繋がるものと確信します。審査員の募集はホームページで案内しています。ご参加にご協力お願いいたします。

---ご希望、近況報告、所感などの投稿のお願い---

会員の皆様からのご希望ご意見が同窓会活動を変えていきます。また、社会人、OBとして5年目、10年目の節目の所感を綴ってみるのも大切なことです。変化する社会や技術革新や子育てに翻弄されても自己を見つめなおして心新たに決意を語って問いかけてみてください。ホームページ「事務局への連絡（会員）」で会誌掲載を受け付けています。会誌掲載可とお書き添えください。

会誌WEB化後の印刷物送付 要・不要 アンケート集計結果

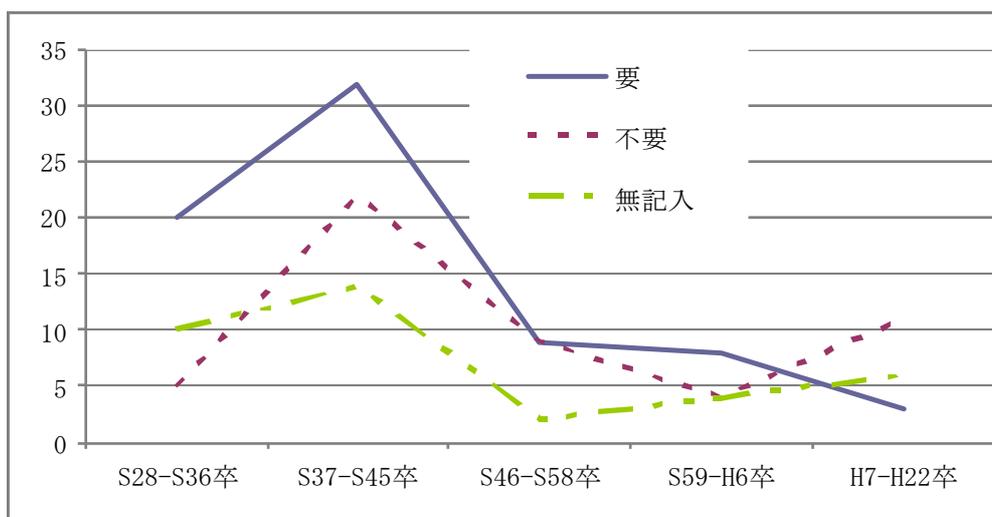
昨年の返信葉書で皆様にご協力をお願いしました、アンケートの集計結果が纏まりましたので報告致します。ご協力ありがとうございました。

アンケートの内容

会誌をWEB（同窓会ホームページ）に掲載した場合、印刷された会誌の送付が必要か不要か

アンケート集計結果

卒業年代区分	発送数	必要	不要	無記入	合計
昭和年代卒業生	315	67	36	27	130
平成年代卒業生	1,007	6	15	9	30
合計	1,322	73	51	36	160
		45.6	31.9	22.5	%



常任幹事会決定事項

5月28日（土）開催の常任幹事会で審議した結果を報告します。

- ①返信数が発送数の12%とサンプル数が少なくアンケートのみでは決定できない。
- ②必要と回答した会員が半数近くいることは無視できない。
- ③常任幹事会としては下記の通りとすることを決定した。

会誌（印刷物）の送付は当分の間、継続する。

ホームページのご案内



昭和 40 年卒ホームページ担当 門原 健男

電気同窓会独自のサーバーによるホームページを立ち上げて 3 年目になりますが、会員の皆様におかれましては、時々同窓会ホームページの URL にアクセスして、閲覧して頂いているでしょうか。

菱沼会長の命によりホームページ担当となった者ですが、同窓会のイベント等に参加したりして、その様子を写真に撮り少し説明などを挿入してホームページに掲載しております。写真の撮り方等も不慣れのため不鮮明なものや構図の悪いものが多かったと反省しています。昨年の総会・懇親会後に掲載した内容は以下の通りです。まだご覧になってない方はぜひアクセスしてみてください。

(<http://www.elect-chuo.com>)

- ① 2010 年総会・懇親会----67 名が参加されました。
- ② 理工学部 8 学科合同新年懇親会--平野前官房長官が特別招待参加しました。
- ③ 福島第一原発事故、心痛・心労「吐露会」--当日参加 10 名+メール参加 2 名
- ④ 修士論文発表会で同窓会賞審査----13 名が参加して聴講・審査しました。
- ⑤ 平成 22 年度修了式・卒業式・同窓会賞授与式----学部および学科の合同式は中止となり、各研究室毎でおこなわれました。
- ⑥ 平成 23 年度入学式----各学科毎に行われました。
- ⑦ 第 29 回 OB 会春季ゴルフコンペ----9 名が参加しました。
- ⑧ 稲葉教授最終講義のご案内

会員の皆様に見て頂いて興味を示して頂けるよう、これまでに運用し、掲載してきた内容等について見直して、更に充実したものにしたいと考えています。皆様からのご意見や要望を取り入れて改善していきたいと考えていますので、掲載項目、内容、体裁、等について、ホームページの「事務局への連絡」フォームからメッセージをお寄せ下さい。お待ちしております。

2010年度修士論文発表会「同窓会賞」

2011年2月26日（土）に開催された「2010年度修士論文発表会」において、同窓会会員により構成された審査員が厳正なる審査を行った結果、下記の方々に「同窓会賞」を贈呈することに決定致しました。

表彰並びに賞の贈呈は、3月24日（木）に「東日本大震災」の影響で各研究室単位で開催された「学位記」授与の席上にて同窓会役員がお伺いして贈呈しました。

《同窓会賞とは》

同窓会賞は、同窓会審査員が統一された「審査チェックリスト」に基づき、下に示す独自の視点により、修士論文の発表を審査し選定したものであり、修士論文内容の学問的価値あるいは当該院生の修士課程での成績等を考慮したものではありません。

《優秀賞》

下記の観点から、修士論文発表を審査し、審査員が合議の上で優秀な論文を優秀賞とします。

- ・研究の背景や目的が明確に述べられ、発表態度に好感が持てたか。
- ・説明や図表が聴講者に分かりやすく纏められていたか。
- ・発表者のオリジナリティが明確に述べられ、残った課題や将来性について言及していたか。

《協賛社表彰》

同窓会賞の主旨に賛同し、ご寄附を戴いた協賛各社の代表により優秀賞対象発表論文の中から選定された論文であって優秀賞との優劣はありません。

協賛社名：アイコンテクノ株式会社（URL：<http://www.aikon.co.jp/>）

株式会社ウッズ（URL：<http://www.woods-corp.co.jp/>）

菱沼技術士事務所（URL：<http://www.e-hishi.com>）

《優秀賞》

関野 智啓 さん（今井研）

テーマ：プライバシーを考慮したRFIDシステムの研究

千葉 慎平 さん（今井研）

テーマ：情報理論的に安全なリング署名方式に関する研究

辻 翔平 さん（庄司研）

テーマ：半導体レーザ励起小型紫外レーザの開発

長野 克政 さん（二本研） 会員

テーマ：磁気力顕微鏡の高分解能探針の開発および高密度磁気記録媒体の記録磁化状態解析

菅野 貴仁 さん（築山研）

テーマ：SOQおよびSOS基板上に作製したMOSFETの移動度に関する研究

《アイコンテクノ賞》

細越 純毅 さん（築山研）

テーマ：アナログ回路のための階層的クラスタリング配置手法に関する研究

《ウッズ賞》

金阿彌 惇也 さん（木下研）

テーマ：反復重複部推定を用いたMAP合成の精度向上に関する研究

《菱沼技術士事務所賞》

藪原 穰 さん（二本研） 会員

テーマ：CoおよびFe系規則合金エピタキシャル薄膜の形成と構造・磁気特性評価

同窓会賞受賞者のコメント

長野 克政

この度は、同窓会賞優秀賞をいただき、心から感謝しております。私がこの賞をいただけたのは、多くのご指導およびご鞭撻の程を賜りました二本教授をはじめ、同研究室の皆様から有益な助言をいただけたからだと思っております。私個人の力では得られなかったものであり、私の研究に携わっていただいた皆様から心から感謝の意を示します。研究室生活では、学会発表や論文執筆といったチャンスを与えていただき、多数の発表や学術論文の執筆を経験することができました。この経験は私にとっても大きな糧であり、一つの分野を究めるといった基本的な姿勢を学ぶことができました。

これから卒業されます後輩の皆様には、大学生時代に培ってきた知識および研究生活で得た糧を大切にして社会人として活躍されることを願っております。何か一つのことにと没頭して、これだけは誰にも負けないというものを学生生活の中で見つけ出して欲しいと感じています。今後も厳しい情勢が続くと見込まれますが、望みと光りが満ちた日本になるように一人ひとりが努力しなければならぬ時期だと思っております。私も今春から社会人になり、新たな専門分野を究められるように日々精進していき、誰からも信頼される技術者となり、社会に少しでも貢献できるように頑張りたいと思います。

藪原 穰 (やぶはら おさむ)

この度は、同窓会賞〈菱沼技術士事務所賞〉を頂き、同窓会の皆様に、心より御礼申し上げます。また、修士論文を執筆するにあたり、指導教授である二本教授、および先輩である大竹さんにはいつも懇切・丁寧な指導を賜りました。ここに改めて、感謝いたします。

二本研究室で過ごした3年間で印象深いことは、数多くの国際会議に参加したことでした。それに伴って、非常に多くのことを学ぶことができましたと思っています。修士論文として発表したエピタキシャル磁性薄膜に関する知識がついたことは言うまでもないですが、何よりも、度胸とチャレンジ精神が身についたと感じています。現地ではぶっつけ本番で現地の方に道を聞いたり、晩御

飯をどこで食べたらいいかをホテルのフロントに聞いたり、といったことを最初は先生や先輩方に背中を押されながら、慣れない英語を使いつつ挑んでいました。そんな経験を何度も積んでいくうちに、下手な英語で話すことにも恥ずかしさを感じなくなり、発表で専門の方から英語で質問されても答えることができるようになっていました。

今は何の因果か、会社の中でも英語をよく使う部門に配属され、会議でも英語が飛び交っています。今はわからないことだらけで、何事もチャレンジの毎日です。研究室で身につけた力活かし、早く一人前となれるよう頑張りたいと思います。

同窓会の発展に関する一考察

同窓会誌発行委員会 委員長

飯塚 信市 (47年卒)

1. 同窓会の発展とは

当会は、現在のところ、約1320名の会員を擁する組織です。勿論、会の運営経費を捻出する関係では、会員数は大切な要素です。しかし、本来、同窓会の発展とは、決して、会員数を増やすことではなく、会員同士の繋がりを増やすことであろうかと思われまふ。ここで言う「繋がり」とは、会員同士で直接的なコンタクトをとることは勿論のこと、直接的なコンタクトはとらないものの、同窓会誌やホームページ等を通じて常に同窓会に強い関心を持っていただくことも含みます。例年、暮れの総会並びに懇親会には、50～60名程度の会員が参加されますが、その背後には、総会などには参加されないものの、同窓会を暖かく見守っていただいている多数のサイレントマジョリティがおられるものと理解しております。

2. 同窓会発展への問題点

同窓会という組織の同窓会たる所以は、それが同期会ではないと言う点であろうかと思われまふ。同期会であれば、同じ場所(教授陣や研究室等を含む広い概念)で一時代を共に過ごしたことを絆として、仲間同士の一体感も醸成され、それが会の発展にひとりでは繋がるのであろうかと思われまふ。しかしながら、各卒業年度の個々の卒業生又は個々の同期会を縦に繋げたような組織である同窓会におきましては、異なる年度の卒

業生同士は、過去に同じ場所にいたという共通点はあるものの、そこで共に時代を過ごしたわけではない以上、そのような共通点のみに仲間同士の一体感を求め、それによる同窓会全体としての発展を期することには自ずと限界があろうかと思われまふ。

3. 同窓会(同窓会誌)の本来果たすべき役割

同窓会の果たす役割を一言で表現するならば、それは、「同窓会員に奉仕すること」であろうかと思われまふ。かかる観点より、同窓会誌には、理工学部電気科の現状(学科、研究科、教授陣、活動等々)や会員からのお便り、さらに、最近では、各年代の同期会による報告、特定会員による近況報告等々を広く掲載するようにしております。これらは、少なからずの会員に対して、同窓会に対する関心を高めることに貢献しているものと理解しております。

4. 私の提案

上述の同窓会発展の意義、発展への問題点、及び果たす役割を考えると、私は、現在の同窓会活動に対して幾分の物足りなさを感じております。それは、折角、多数の世代が縦に繋がった同窓会でありながら、同窓会発展の原動力ともなるべき世代間の繋がりがなかなか見えてこないと言う点であります。

これは、我が電気科同窓会のみならず、他の大学の各学科の同窓会におきましても、同様であり、具体的には、幹事として活躍する世代の人数は昭和50年代以降、急激に減少に転じ、かなりの間を置いて平成10年代に続くと言った状況にも現れております。勿論、その理由としては、所謂30代、40代と言った現役世代は多忙であること、そもそも若い世代は密接なる人間関係を敬遠しがちであること、中の上程度の難易度大学の学生には勝ち取って入学した意識が少なく、必然的に愛校心に乏しいこと等を挙げることもできます。

しかし、私は、中大理工の電気系学科を卒業したというかなり狭められた共通の要素を有しながら、かつ所在の明らかな1300余名の集団が、それぞれ試行錯誤しつつ社会に揉まれて、様々な体験をしつつ知識を蓄えているにも拘わらず、そのような体験乃至知識が同窓会を通じて会員の個々に反映されないと言うことは誠にもったいない話では無かろうかと思う次第です。逆に、そのような体験乃至知識が共有されてこそ、同窓会の存在意義があるのではないかと思う次第です。

そこで、私は、そのような同窓会員の有する経験や知識を積極的に掘り起こす手段を提供したいと思います。具体的には、同窓会誌やホームページを通じて、多数の世代に共通な関心事となる普遍的テーマを提供すると共に、それに対して、

各会員からの意見投稿を募ってはどうか。テーマの選定は、幹事団の側から行っても良いし、会員側から行ってもよいでしょう。テーマの数も、年1つとしてもよいし、複数としてもよいでしょう。さらに、各テーマの有効期間も1年に拘ることはなく、一度選定されテーマは未来永劫に継続的に提供してもよいでしょう。つまり、初年度の新テーマがA1、次年度の新テーマがA2、3年度の新テーマがA3、・・・とするならば、以後、n年度のテーマはA1～Anのように蓄積しつつ提供してもよいでしょう。また、投稿された意見の発表も、必ずしも、テーマを提供した年に行う必要はなく、そのテーマに対する意見が何年か経ってある程度蓄積された時点で行えばよいでしょう。また、その発表の場も、同窓会誌でもよいし、ホームページ上でもよく、場合によっては、別途、冊子に編集してもよいでしょう。そうして各会員から集められた意見は、きっと、新卒業生にとっては、人生の道標となり、同窓会加入への健全な動機付けとなるのではないのでしょうか。

気の長い話です。でも、実行する価値はあるのではないかと思います。

会員からのお便り

(平成22年度返信葉書の近況・コメント欄からの転載、都道府県は現住所)

「会員からのお便り」を読みながら、諸氏のお顔を懐かしく思い出しております。すでに現役を退かれた方々も、趣味や仕事で充実した第2の人生を送っておられるご様子で心強く思っています。

理工学部も、新2号館の完成によって内外共に益々充実し、社会に貢献できることは喜ばしいことです。

私も年々体力の衰えを感じる昨今ですが、何とかボケないよう頑張るつもりです。

(元教員 東京都 深井 昌)

お蔭様で元気です。中央大学の各々スポーツの応援に参加しています。

(昭和28年卒 東京都 長田孝弥)

傘寿を目前として相変わらず趣味のゴルフにはまり、元気に過ごしています。同窓会は同期の友の参加が少なくなり、また、お世話になった先生方もほとんどが鬼籍に入られ寂しいかぎり、参加意欲も薄れてきているのを感じています。

同窓会の益々のご発展をお祈りします。

(昭和28年卒 神奈川県 鈴木克郎)

目下 元気一杯、でも困惑思案中。その訳は、私流に老人とは、「80歳以上で他人様になるもの」と決めていました………ので。

(昭和28年卒 埼玉県 竹中四朗)

相変わらず散歩、趣味などで過ごしています。

(昭和28年卒 東京都 吉江實成彦)

お蔭様でなんとか頑張っています。皆様のご健勝を祈念します。同窓会の発展を期待します。

(昭和29年卒 東京都 黒崎勝吉)

私ども(社)協会の公益法人改革を最重要テーマとして対応に苦勞しています。

(昭和31年卒 北海道 山口岩男)

毎年出席出来るのを楽しみにしています。

(昭和32年卒 大阪府 内田 信)

老人会員として地域活動に参加、現役時よりなにやら忙しい感じで過ごしております。

(昭和33年卒 神奈川県 伊藤恒雄)

元気にしております。皆様によろしくお伝え下さい。

(昭和33年卒 神奈川県 永井 甫)

毎年のことながら幹事諸兄には御苦勞様です。最近の不景気にはいささかへきえきしています。6月にハローワークへ人材雇用の件で訪問しましたが、定年退職された方でも良いからと話をしましたが、家族がいるからとか、英語が不得手とかの話ばかりで4件あった応募の話も全部辞退されました。今は採用する人材で困っています。

フィリピンの労働環境も決して良くなく失業率は約7%弱ですが明るい感じの世相です。日本人は今年、殺されたのは6人ですから例年より治安は良いと云えるかも知れません。大統領も変わった男ですのでこれからは多少良くなると期待して良いかも？ 諸兄によろしく。

(昭和34年卒 神奈川県 佐々木 裕)

猪狩先生の訃報に接し心より哀悼の意を表します。先生の若き時代に卒論を指導して頂きました。

今年(平成22年9月)も水彩画個展を有楽町のギャラリーで行いました。昨年来場頂いた方々とも楽しく話をすることが出来ました。心身共に健康で毎年開催出来るよう自分自身を励ましていきたいと願っています。

(昭和34年卒 東京都 塚原達雄)

体調と相談しながら福山大学の特別講義の聴講、福山市老人大学で勉学しています。

(昭和35年卒 広島県 重政弘康)

卒業生の皆さんこんにちは。早いもので又一年経ちました。福岡県では同窓の松本竜君が環境大臣となってTVに出ております。私は筑豊地区の白門会会長を昨年からさせられております。私の趣味は磯釣りですが、釣クラブの名誉会長です。鹿児島、四国、五島列島、南西諸島、男女群島、etc. 何処へ行っても釣れない私らを会員は笑っており真に残念……で私は仕方なく涙ながらにカワハギ、小アジと戯れております。悲しいことですネ、スタミナも無いしトホホ……!

では、お元気で来年又……

(昭和35年卒 福岡県 新開盛治)

チリ鉱山の奇蹟の救出劇を見て仲間意識と絆の大切さを今更のごとく感じました。これを機に己の所属する会を見直してみたいと思います。

中大電気同窓会も同じです。

(昭和35年 埼玉県 田伏良雄)

2010年度はスイス長期ステイ・シャモニー・グリンデルワルト・ツェルマツト21日に参加、スイスアルプスに人生最後の挑戦（6年前に一度挑戦）自己流のトレーニング（3ヶ月）6月22日成田～ジュネーブへ、シャモニー（フランス）3日滞在、モンブランを正面にシャモニー針峰群ハイキング。

★グリンデルワルトに7日間滞在、アイガー・メンヒ・エングフロウに別角度から眺められるハイキング。★ファウルホルン(2,686m)登山成功(標高差731m)★ツェルマツトに7日間滞在。マッターホルンを仰ぐアルペン・リゾートで、マッターホルンの観光基地。人気が高い氷河特急の発着点でもある。7月5日マッターホルン北壁真下の黒い湖を見ながらヘルンリ稜を登山。歩程約8キロ、マッターホルン登山ベース基地、ヘルンリ小屋、3,260m(標高差677m)まで登山成功。

スイスアルプス旅行は何度行っても美しい楽しい元気を貰える。

(昭和35年卒 茨城県 村井康男)

私自身は元気ですが、妻は3月末～9月中旬迄に3回も入院しました。原因は脱水症、飲まず食わずが4～5日続く為病院に連絡し入院、検査の結果は脱水症、他に異常なし(入院は1ヶ月前後)。アルツハイマー型痴呆症による。丸10年介護していますが今回の様な事は初めてです。介護のため欠席します。皆様によろしく。

(昭和38年卒 東京都 五本 武)

会社を完全リタイアして一年半がアット言う間に過ぎました。海外旅行2回、月3回のゴルフ、週1回のハーレーのツーリング。こんなにも忙しく、楽しい日々が送れるとは想像もしていませんでした。人生バンザイ！！

(昭和38年卒 千葉県 木本品久)

自身を活性化するべく趣味の磯釣り、ゴルフの目標を設定しましたが、なにせ加齢に逆らうのは容易ではありません。

しかし、10年来工夫してきたのは磯釣り用の浮力調整ウキです。磯釣り専門誌「磯釣り秘伝」に注目され4ページに渡って掲載されました。また、このウキで出願、登録した私の特許を無断で使用しているメーカーと係争中です。YAHOO「浮力調整ウキ」で検索して下さい。

(昭和38年卒 栃木県 山本立夫)

前号に同期木下先生の大学近況報告が掲載され、後輩諸君の進路など関心を持って読ませて頂くと共にまだ元気に後輩指導されている状況に心強く感じています。

小生は、3年程前に仕事から離れ、趣味、自適生活に入っていますが益々同窓生が発展・活躍されることを期待しています。

(昭和39年卒 埼玉県 齊藤榮喜)

組み込み系ソフト開発企業2社の顧問をしており、エレクトロニクス、電機、産業機械、自動車、二次電池、原子力発電等の業界に参入のサポートをしています。更に医療機器にも参入しています。

(昭和40年卒 奈良県 岡田 章)

2009年頃から田舎(高知)の義父母が体調を崩し、2009年暮には義母が、2010年春は義父が続いて他界し、この1~2年は何度も田舎を往復する忙しい生活でした。今後は自分の体調維持にも注意せねばと思っています。

(昭和40年卒 埼玉県 門原健男)

大学時代と社会人になってから10年ほど、良く山歩きを楽しんでおりましたが、65歳を越えられた記念に、富士登山をしてみたいと思い、本年、富士吉田口の1合目から、頂上迄登りました。本年は孫達をつれてもう一度チャレンジします。相変わらず国内外のお客様を訪問して、微力ながらお役に立とうと努力しております。

(昭和41年卒 埼玉県 河西宣良)

68歳、元気に青梅・東京などを走っています。(株)アビーズでは、設備用据置バッテリーの劣化診断後の再生使用を市場に1/2以下の費用で実施しています。コストダウンだけでなく、CO₂排出も「ゼロ」、低酸素社会に貢献しています。

(昭和41年卒 東京都 田口昭夫)

会誌の内容充実に嬉しく感謝致します。先輩後輩OBの活躍記事に心強く思います。

私は、昨年迄2年間は習志野市民カレッジに通学し卒業しました本年春より千葉県生涯大学校・園芸科(2年課程)に毎週土曜日に通学しています。庭木の剪定位は自分でしたいと思っています。囲碁教室(毎週1回)、囲碁クラブの仲間と遊んでいます。

(昭和41年卒 千葉県 富田紘志)

企業勤務から専門学校での講師生活も2年目です。電験第3種・電気工事士(第1種・第2種)の講義・実習です。資格試験合格と企業への就職内定を学生と一緒に喜び合える違った体験しております。春・夏・冬と長期休暇を楽しみながらロンドン大会(2012年)迄頑張ります。役員、幹事の皆様今後ともよろしくお祈りします。

(昭和41年卒 広島県 橋本正樹)

仕事：社員の技術教育、農業、男声合唱で楽しく生活しています。

技術教育テーマとして合唱でも関係する音の周波数スペクトル解析を準備中です。合唱活動では今年のコンサート出演回数は計 10 回予定しています。

農業は自家用のみですが今年「ウコン」「ナタ豆」「麦」を新しく植付けしています。

(昭和 42 年卒 千葉県 秋田隆史)

年に 2 回程 (春と秋) 家内と一緒に娘の嫁ぎ先、オーストラリアのメルボルンへ旅行を兼ねて行っています。近年、中国、韓国の若人が多数オーストラリアの大学の留学生として見かけます。残念ながら日本の若人は余り見かけません。大学の職員も早大から短期出張で赴任していましたが、日本人は少ない様に思います。

(昭和 42 年卒 東京都 磯野正洲)

卒業後、あつというまに 43 年。神奈川県企業庁を退職し、その間に培った水のインフラ管理 (水力発電、上下水道、ダム) を活かし、民間企業で浄水場の運転管理をやってきました。今年の 4 月より非常勤で責任者の役割も一段落。

本誌によると 10 年 3 月卒業生で神奈川県庁 3 名の採用とのことですが後輩の活躍を祈念しております。

(昭和 42 年卒 神奈川県 栗原董光)

会誌の We b 化、大賛成です。あちこちの同窓会の費用の大部分は通信費ですから。

(昭和 43 年卒 東京都 飯高秀男)

退職後、約 2 年経過しました。その間に、主夫に劇的に変身しました。家において、何もできない男は、「孤舟」(渡辺淳一著)の主人公のようになってしまいます。多くの家事をこなしながら、読書三昧に明け暮れる毎日です。

昨年報告した量子力学は、ちょうど一年かかって読了 (書いて) しました。数学力不足で、量子力学の難しさをさらに知った次第です。

(昭和 43 年卒 神奈川県 今村雅明)

アルバイトでそれまでの会社に勤めています。仕事の楽しさがやっと分かってきたかな、そう思っています。その他に、ボランティアをしているが、これにより多くの仲間を得た。仲間は年を取れば取る程大事になってくる。いいものである。人生を楽しませてくれる、仲間感謝である。

(昭和 43 年卒 埼玉県 長浜宣郎)

今年も同窓会に出席できましたことに感謝しています。今年の後輩の出島関の断髪式と大鳴戸親方の襲名式に参加しました。また、中、高校の同窓会、ふるさと会 (石川県) にも積極的に参画し、さらに会社関係の O B 会、親しい仲間の旅行会にも参画し忙しい毎日を過ごしています。これが元気の根元かもしれません。

(昭和 43 年卒 千葉県 中村雅喜)

冠省 幹事の皆様ご苦労様です。

最近では商売関係の他にも商工会議所の議員会長、ロータリークラブ会長他、ボランティア系の仕事も重複し、とても多忙な日々を過ごしております。

中大の方も学員会帯広支部長という立場で 11/13 の 125 周年に出席しなければならず、今回の欠席をお許し賜りたいとぞんじます。電機同窓会の盛会と皆様益々の弥栄を祈念申し上げます。

(昭和 45 年卒 北海道 後藤裕弘)

早いもので同窓会の季節がやってきて皆様と会えるのですね～!

この間、行政書士の仕事で文京区役所に行った帰り、久々に理工学部に寄らせてもらいました。高層の学舎が幾重も立ち並び我々の時代とは別世界の様でした。今年創立 125 周年と云うことですし、我々が巣立った学びの園が大きくなっていくことは喜ばしいかぎりです。私もいつまでも現役で役に立ちたいです。

(昭和 45 年卒 東京都 保坂早苗)

今年は大変な暑さに辟易しました。お蔭様で、子供達も皆、社会人となり、これからは社会との繋がりをより意識しながら歩んで行きたいと思っています。

(昭和 47 年卒 東京都 飯塚信市)

リーマンショック以来、製造業の状況は非常に厳しい環境が継続しています。自社製品の拡販の為、営業活動しております。(富士山天然水)

(昭和 47 年卒 静岡県 土屋憲司)

会社を今年 (2010 年) 6 月末で嘱託となりました。長男 (34 歳)、次男 (27 歳) は既に会社員生活を始めていますが、三男 (20 歳) は知的障害者で親と一心同体?の生活を余儀なくされています。しかも我が家では三男のお陰で外出する機会が急増しました。理由は「三男一人だけでは何処へも行けない」ので親も同行する為です。近所の散歩もさることながら、日帰り温泉や一泊二日の旅行を女房と 3 人で始めました。既に「関東の駅」を 100 駅以上訪問したり、伊豆半島を伊東駅

から伊豆急下田駅まで往復ウォーキング(160Km)をしたりしました。今年7月以降は三男の生活園通園に同行して往復8Kmを日々歩いています。退任後の3ヶ月間で累計100万歩(距離換算で500Km以上)を達成しました。

来年から本格的な新しい生活のリズム作りのスタートは順調です。サラリーマン生活から「のんびり、ワクワクの生活」へ家族と共に移行中のアラカン夫婦の毎日です。

(昭和47年卒 東京都 藤井 隆)

今年の8月に関係会社に出向となり、杉並区永福町にある有料老人ホーム「もみの樹・杉並」の館長となりました。高齢化社会のお役に立つべく、日々奮闘中です。11月20日は介護関係の研修と重なってしまい参加できませんが、当方元気にやっております。

(昭和57年卒 東京都 太田一雄)

皆様お元気でしょうか。入試業務と重なり出席できませんが、毎日ヒグマと格闘して暮らしております。感情を測る研究も6～7合目まで来て楽しい所です。ただ、時間と研究費がないのが悩みの種です。皆様もたまには札幌に来ておいしい魚やカニをご堪能下さい。皆様の益々のご健康とご長寿をお祈りします。

(昭和57年卒 北海道 山下政司)

カーボンブラシは自動車関連が回復してきたため業績もプラスになりました。しかし、油断は禁物です。中小企業ならではのフットワークを生かして頑張ります。

(昭和60年卒 埼玉県 手塚賢司)

本年3月に沖縄から千葉に転勤してきました。これから冬を迎え、内地の寒さに先が思いやられます。ご盛會を祈念しております。

(昭和60年卒 千葉県 横田一哉)

画像認識に取り組んでいます。

(平成7年卒 埼玉県 井上太郎)

来年2月に第2子が生まれる予定です。一家の主人として責任を感じると共に、子供の成長が楽しみです。来年は電験一種を取得します。

(平成10年卒 東京都 石塚尚孝)

2010年5月5日に結婚しました。妻は中央大学の卒業生で、共通の話題が多く楽しんでおります。10年働いた会社は、4月に合併で名称が変わり、公私共に変化の多い一年に挑んでいるところです。

(平成10年卒 東京都 坂野 学)

現在の会社に入社して10年が経過致しました。長男は来年小学校入学、長女は幼稚園入園と確実に時間が過ぎていきます。毎日を充実させて頑張ります。宮城から中大を応援しています。

(平成12年卒 宮城県 高橋寛治)

今では電機電子技術とは離れた仕事を行っておりますが、ベースの部分ではやはり電気屋なんだなあと思われ知らされます。

一度も卒業後に訪れておりません。移り住んだこともあります。そのうち行こうと思いつけて10年経ちました。Iターン就職も悪くないですがこうなることがありますね。

(要望)個人情報保護シールを同封して頂きたかったです。

(平成12年卒 愛知県 高橋健太郎)

東日本大震災で被災された皆様に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。福島第1原子力発電所の事故により避難を余儀なくされた皆様に心からお見舞い申し上げます。同窓の方々に被災された方も多数おられるものと思いますが、同窓会として何の力にもなれず忸怩たる思いでおります。本誌が発行される頃には復興も軌道に乗り、平和で安定した生活を送ることが出来ていますよう祈念致します。

福島第1原発事故並びに浜岡原発の運転停止による電力需給の逼迫は、これからの日本におけるエネルギー政策を考える機会を与えられたものと考えます。電気電子情報通信工学を学んだ同窓生諸兄は本気でこれらの課題を考察して下さい。

今年も多数の会員の皆様からのお便りを掲載することが出来ました。皆様からのご協力を感謝申し上げます。1年後の会誌掲載となりますが、今後もこのコラムを継続し充実したものにすため、返信ハガキに近況等なんでも結構ですので記入しご投函下さい。特に平成年代の方々の投稿が少ないので奮ってご投稿願います。

(事務局)

総会時開催講演会の要旨

「使いやすく役に立つ世界初のレーザー実現へ向けて」

庄 司 一 郎

レーザーが誕生したのは1960年で、昨年は50周年記念のイベントが国内外で開催されました。現在、レーザーは加工・医療・計測をはじめ幅広い分野で利用されているのは周知のとおりです。特に、半導体レーザーは超小型かつ高効率であるため、光ディスクドライブやレーザープリンタなど、日常生活の身近なところでも用いられています。ただ、筆者に言わせると、レーザーの潜在能力はこの程度のもではなく、それをうまく引き出すことによってさらに新しい世界を切り拓けるのではないかと考えています。

レーザー光は他の光に比べて品質が良く（コヒーレントであると言います）、指向性・集光性・単色性に優れています。ところが、高出力化を図るとこれらの性能が劣化するのが現状です。したがって、高出力かつ品質の良いレーザーを実現するのがまず不可欠です。それに加え、実用的にはより効率が高く（低消費電力）、小型で使いやすいこともポイントです。さらに、レーザー光の波長も重要です。物質に光を照射したときの応答は波長によって大きく異なるため、使用する目的に応じ、さまざまな波長のレーザーが必要になるためです。筆者のグループでは、これらの要求を同時に満たすレーザーを実現することを究極の目的として研究を進めています。

最近、そのコアとなる可能性のある技術として、「常温接合」を用いたレーザーデバイスの開発に力を入れています。常温接合とは常温・真空中で、接着剤等を使うことなく材料同士を原子レベルで貼り合

わせる技術です。この技術自体は東大のグループが開発したのですが、接合界面を光が通過するようなレーザーデバイスに適用したのは筆者のグループが初めてです。

例えば、Yb添加YAG (Yb:YAG)というレーザー材料は、大量のエネルギーを蓄積して一気に放出することができますが、レーザー動作時の発熱で温度が上がると効率が低下するという問題があります。そこで、Yb:YAGの両側に無添加のYAGを貼り合わせることで、Yb:YAGで生じた熱をYAGに逃がす構造を常温接合で作製しました（図1）。この手法の利点は、従来的高温プロセスによる接合法では熱膨張係数が異なる材料同士の接合は困難だったのに対し、常温でのプロセスのため接合する材料の種類を問わないことです。今後、熱伝導性に優れた材料を用いた複合構造を作製することによって高エネルギー動作を実現すれば、コージェネレーションで用いられるガスエンジンをレーザーで効率よく点火するといったことも可能になると考えています。

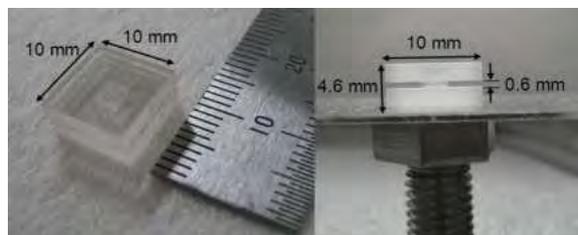


図1 Yb:YAGとYAGを接合した複合構造レーザー

常温接合はさまざまな波長で動作するレーザーを開発する際にも威力を発揮します。レーザー材料の種類には限りがあるため、レーザーが直接出すことのでき

る波長も限られています。そこで現在は、既存のレーザーからの光を波長変換デバイスに通すことによって、さまざまな波長のレーザー光に変換する研究が行われています。その際、波長変換の効率を向上するために、材料の向きを周期的に変えた構造を作製する必要があります。これまで、いくつかの方法が提案されてきましたが、どれも適用できる材料が限定されているという問題がありました。ところが、常温接合は原理的に任意の材料へ適用することが可能なため、これまで波長変換の潜在的な性能は高くてもデバイス化のための方法が存在しなかったために注目されなかった材料を用いることが可能になります。また、高温プロセスでは品質が劣化してしまう材料にも適用できます。これまで、テラヘルツ帯（波長数百 μm ）のような長波長や、逆に、深紫外

光（波長 300 nm 以下）のような短波長へレーザー光を波長変換することが可能なデバイスを作製しました（図 2）。

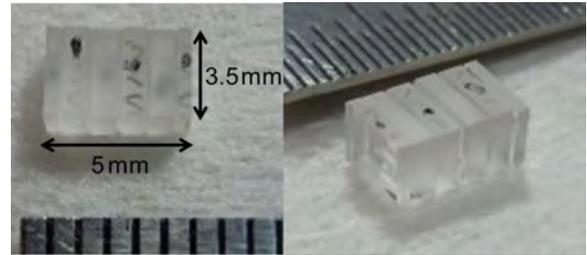


図 2 高効率深紫外光発生波長変換デバイス

今後、新しい材料を使ったこれまでにないレーザーを実現すべく、研究を継続していく所存です。当日の講演では上記の内容をより詳細にわかりやすくご紹介する予定です。

略 歴 :

生 年 : 1969 年

出身高校 : 北海道立室蘭栄高等学校

最終学歴 : 東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻修士課程修了

主な職歴 : 1995 年 1 月～3 月 東京大学工学部物理工学科科技官

1995 年 4 月～1999 年 3 月 東京大学工学部物理工学科助手

1999 年 4 月～2002 年 3 月 岡崎国立共同研究機構分子科学研究所非常勤研究員

2002 年 4 月～2004 年 3 月 岡崎国立共同研究機構分子科学研究所助手

2004 年 4 月～2005 年 3 月 中央大学理工学部専任講師

2005 年 4 月～2007 年 3 月 中央大学理工学部助教授

2007 年 4 月～2010 年 3 月 中央大学理工学部准教授

2010 年 4 月～ 中央大学理工学部教授

専門分野 : 非線形光学、固体レーザー

担当科目 : 光エレクトロニクス、光デバイス

趣 味 : テニス、クラシック音楽鑑賞

最近の研究テーマ : 非線形光学定数の精密測定

波長変換デバイスの開発

セラミックスレーザー

レーザー材料の光学特性に関する研究

主な著書 : International Trends in Optics and Photonics, Springer-Verlag, 1999 (分担).

【編集後記】

会誌発行委員会 委員長：昭和47年卒 飯塚 信市



皆様周知の通り、3月11日以来、歴史に残る大変な年となりました。具体的な報告は同窓会には届いていませんが、おそらくは、会員の中にも、あるいは、会員の親戚や知人の中にも、今回の災害で被災され、或いは亡くなられた方々がおられることでしょう。誠にお気の毒で、心よりお悔やみを申し上げます。

原子力発電所の事故と言う、あつてはならない事態にも遭遇しました。原子炉の構造などという専門的な技術情報がテレビニュースに日々流され、専門家のみならず、一般国民までもが原子炉なるものの概念に接することとなりました。目に見えない放射能も、食品等を通じて、じわじわと、身近に迫りつつあります。現在、福島第1で復旧作業に携わる者のみならず、我々技術者は、今こそ、英知を出し合って、この難局を乗り越えねばなりません。「なでしこジャパン」のように。

本年度の同窓会誌は、変形B5版からA4版へと模様替えをしました。そもそも、変形B5版としたのは、郵便料金との関係で重量軽減を図る必要からでした。この問題は、民間宅配業者を活用することで解決されました。結果、頁総数の制約からも開放され、今後は、より一層、皆様の声を広く反映した同窓会誌の作成が可能となりました。

最後に、それぞれご多忙の中、当方の依頼に快く原稿作成をお引き受けいただいた各位に深く謝意を表します。



中央大学理工学部電気電子情報通信工学科同窓会 会誌第48号

発行所：中央大学理工学部電気電子情報通信工学科同窓会

〒112-8551 東京都文京区春日1丁目13番27号

FAX：(03) 3817-1847

URL：<http://www.elect-chuo.com/>

発行日：2011年10月1日

編集人：飯塚 信市

発行人：菱沼 一夫

惜別の歌

作詞 島崎 藤村

遠き別れに 耐えかねて
この高殿に のぼるかな
悲しむなかれ わが友よ
旅の衣を ととのえよ

別れと言えば 昔より
この人の世の 常なるを
流るる水を ながむれば
夢はずかしき 涙かな

君がさやけき 目の色も
君くれないの 唇も
君が緑の 黒髪も
またいつか見ん この別れ



中央本線小諸駅・懐古園入口にある島崎藤村の”惜別の歌”の歌碑

撮影：44年卒 田中 晴雄 氏

同窓会総会・懇親会開催のお知らせ

平成23年度「同窓会総会」を下記の通り開催します。本年度の総会は、昭和39年卒の皆さんが「開催委員会」を設置し運営を担当いたします。また、総会終了後には「懇親会」を開催いたしますので、多数の会員の皆様にご出席賜りたくご案内申し上げます。

本年は、平成10年に開催してから13年振りに後樂園キャンパスで開催いたします。その間、3号館が新しく高層ビルに生まれ変わり、2号館も前号でお知らせした通り嘗てのテニスコートと7号館の跡地に建設中で、総会開催の頃には竣工の予定です。古い建物は1号館のみとなり、新しくなった後樂園キャンパスの様子を、この機会に是非ご覧頂きたく開催することにしました。

午後3時頃と早めの終了設定ですので、同期や研究室の仲間と二次会をお楽しみ下さい。

【記】

★総会ならびに懇親会

日時：平成23年11月19日（土） 11:30 ～ 15:00

会場：中央大学理工学部後樂園キャンパス

住所：東京都文京区春日1丁目13番地27号

【総会・講演会の部】

会場：5号館 1階 5138号室

受付：午前11時00分 受付開始

会費：5,000円 但し、平成11年以降の卒業生は3,000円、在學生は無料

総会：11:30 ～ 12:00

講演会：12:00 ～ 12:30

発表者：庄司 一郎 教授

テーマ：「使いやすく役に立つ世界初のレーザ実現へ向けて」

【懇親会の部】（懇親会開始まで、キャンパス内を自由にご見学下さい）

会場：3号館 10階 31008号室（会場が変わります）

懇親会：13:00 ～ 15:00

★会場のご案内



地下鉄

東京メトロ

丸の内線・南北線

「後樂園駅」徒歩5分

都営大江戸線

「春日駅」徒歩5分

都営三田線

「春日駅」徒歩7分

JR総武線

「水道橋駅」徒歩15分

返信葉書は、11月5日（土）必着でご投函下さい